

## シラバス情報収集フォーマット(2016年6月改訂)

## 【記入要領】

1. 下記の**緑色部分**をご記入ください。(記入内容が無い場合は空白とせず無しと記入)
2. **グレー部分**は大学ごとに異なるため必要に応じて個別に対応をお願いする項目です。
3. **白色部分**はあらかじめ想定内容を記入しています。
4. 教員から学生へ必ず伝えてほしい内容についてはチェックボックスへチェック☑を入れて下さい。(各大学のシラバスに必ず記載されません)

1. 開講年度	2018		2. 開講学期	第1学期	
3. 開講学部・学科等 ／区分等	共通教育		4. 授業形態／授業種別	eラーニング	
5. 授業科目区分／科目 分野／科目区分／区分等	教養科目自然分野		6. DPコード／分野コード ／科目ナンバリング		
7. 科目名／科目英文 名／英文併記	(日本語名) 気象学入門 (英文名) Introduction to meteorology				
8. 副題(日本語・英語)	(日本語名)なし (英文名)なし				
9. 担当教員名(教員 ローマ字表記)	(日本語)佐々 浩司 (ローマ字) SASSA Koji				
10. 時間割コード／申請 コード／授業コード			11. 昼夜		
12. 単位数	2		13. 選必修区分／単位 区分	選択	
14. 対象学生	誰でも可		15. 対象年次／区分等 ／標準履修年次	1年生以上	
16. 曜日・時限	なし		17. 講義室		
18. 履修推奨科目	自大学 学生向け	なし	19. 関連科目(関連科 目コード番号)	自大学 学生向け	なし
	連携大学 学生向け	なし		連携大学 学生向け	なし
20. 授業のキーワード ／英文キーワード (3 つ以上5つ以下)	気象、天気予報、気象災害 meteorology, weather report, meteorological disaster				
21. 授業概要	気象に関わる様々な現象は大気の運動や状態変化に伴って発生する。地球上の大気の動きを演習実験などにより説明するとともに、雨雲のできる様子、気象災害の起こる原因や、天気図の見方などについて解説する。				<input checked="" type="checkbox"/>
22. 授業の目的及び 主旨／授業科目の主 題	天気の移り変わりにおけるおおまかなメカニズムを理解するとともに気象学を学ぶ基礎的知識を身につける。さらに天気予報で示される天気図や様々なデータからどのようなことが把握できるのか理解する。				<input checked="" type="checkbox"/>
23. 授業の到達目標 ／学修課題	日本における天気の大まかな動きを理解し、天気予報やレーダーデータなどの気象情報を的確に把握できる。				<input checked="" type="checkbox"/>

24. ディプロマ・ポリシー (卒業時の到達目標・共通教育の理念・教育方針に関わる項目)			
25. カリキュラムマップ (授業科目の主題・授業科目の到達目標とカリキュラムマップ)			
26. 授業スケジュール／授業計画並びに授業及び学習の方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 気象の様々なすがた</li> <li>2. 天気と気候のとらえかた</li> <li>3. 気象の時間的空間的な大きさ</li> <li>4. 大気の気温分布と熱のやりとり</li> <li>5. 地球規模の流れ</li> <li>6. 低気圧と高気圧</li> <li>7. 熱帯低気圧: 台風</li> <li>8. 風の吹き方、局地的な風</li> <li>9. 天気図をみてみよう</li> <li>10. 雲のできかたと雨</li> <li>11. 豪雨</li> <li>12. 強風と突風</li> <li>13. 竜巻とダウンバースト</li> <li>14. 地球温暖化とは</li> <li>15. 気候変動と気象災害</li> </ol>	<input checked="" type="checkbox"/>	
27. 授業時間外学習にかかわる情報	毎回の講義内容のまとめを行う		<input checked="" type="checkbox"/>
28. 成績評価の方法と基準	<p>毎回の講義内容に対する小テスト15回分 40点</p> <p>※小テストの詳細については、moodle上の各回の欄にて確認すること。</p> <p>5回分の内容の理解度を調べるレポート3回分 60点 合計100点で評価する。</p> <p>ただし、毎回の講義内容に対する小テストの受講が10回未満のものについては、5回分の内容の理解度を調べるレポートの提出回数に関わりなく、最終的な成績評価を0～59点で行う。</p>		<input checked="" type="checkbox"/>
29. 再試験の有無	自大学学生向け	なし	<input checked="" type="checkbox"/>
	連携大学学生向け	なし	
30. 受講の条件／先行科目／受講人数制限	<p>受講の条件: 気象に興味があること。</p> <p>受講人数制限: あり</p> <p>香川大学20名・徳島大学20名・鳴門教育大学20名・高知大学制限なし・愛媛大学20名</p>		<input checked="" type="checkbox"/>
31. 受講のルール履修上の注意・担当教員からのメッセージ／履修希望学生に求めるもの	日頃から天気予報を見る習慣や空を見る習慣をつけておくと思います。		<input checked="" type="checkbox"/>

32. 教科書(購入の必要のある図書)	教科書1	書名			<input type="checkbox"/>	
		ISBN		著者名		
		出版社		出版年		
		金額		備考		
33. 教科書・参考書に関する補足情報	参考書1	書名			<input type="checkbox"/>	
		ISBN		著者名		
		出版社		出版年		
		金額		備考		
	参考書2	書名				
		ISBN		著者名		
		出版社		出版年		
		金額		備考		
	参考書3	書名				
		ISBN		著者名		
		出版社		出版年		
		金額		備考		
34. Webテキスト(URL・説明)	Moodle上に掲載 大学連携e-Learning教育支援センター四国(知プラ)ホームページ <a href="http://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/">http://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/</a>				<input checked="" type="checkbox"/>	
35. パソコン必要度	必要	36. 資格等／本科目受講が必要となる資格等／資格取得該当科目	なし	<input checked="" type="checkbox"/>		
37. 教員相互参観授業公開日程					<input type="checkbox"/>	
38. オフィスアワー	自大学 学生向け	10時～12時、13時半～17時のうち、講義時間以外(要事前確認)			<input checked="" type="checkbox"/>	
	連携大学 学生向け	(Skype等webで対応できる場合のみ) sassa@kochi-u.ac.jp			<input checked="" type="checkbox"/>	
39. 連絡先／学生相談場所／学生開示用メール	自大学 学生向け	研究室(理学部1号館108室) sassa@kochi-u.ac.jp			<input checked="" type="checkbox"/>	
	連携大学 学生向け	sassa@kochi-u.ac.jp			<input checked="" type="checkbox"/>	
40. その他／備考	なし				<input checked="" type="checkbox"/>	

## シラバス情報収集フォーマット(2016年6月改訂)

## 【記入要領】

1. 下記の**緑色部分**をご記入ください。(記入内容が無い場合は空白とせず無しと記入)
2. **グレー部分**は大学ごとに異なるため必要に応じて個別に対応をお願いする項目です。
3. **白色部分**はあらかじめ想定内容を記入しています。
4. 教員から学生へ必ず伝えてほしい内容についてはチェックボックスへチェック☑を入れて下さい。(各大学のシラバスに必ず記載されま  
す)

1. 開講年度	2018		2. 開講学期	第1学期	
3. 開講学部・学科等 ／区分等	共通教育		4. 授業形態／授業種 別	eラーニング	
5. 授業科目区分／科 目分野／科目区分／ 区分等	教養科目キャリア形成支援分野		6. DPコード／分野コー ド／科目ナンバリング		
7. 科目名／科目英文 名／英文併記	(日本語名) アクティブラーニング入門 (英文名) Learning Methods of Active Learners				
8. 副題(日本語・英 語)	(日本語名) 体験する教室 (英文名) Experience in Classroom				
9. 担当教員名(教員 ローマ字表記)	(日本語) 立川 明 (ローマ字) TATSUKAWA Akira				
10. 時間割コード／申 請コード／授業コード			11. 昼夜		
12. 単位数	1		13. 選必区分／単位区 分	なし	
14. 対象学生	全学部全学科		15. 対象年次／区分等 ／標準履修年次	1年生	
16. 曜日・時限	なし		17. 講義室		
18. 履修推奨科目	自大学 学生向け	なし	19. 関連科目(関連科 目コード番号)	自大学 学生向け	なし
	連携大学 学生向け	なし		連携大学 学生向け	なし
20. 授業のキーワード ／英文キーワード (3 つ以上5つ以下)	参加型授業, アイスブレイキング, 反転授業, Active Learning, Ice breaking, Flipped Classroom				
21. 授業概要	今、小・中・高等学校では、アクティブラーニングの導入が進められています。都市部の有名進学校で先行して導入されているところは、既に実績を上げています。この授業では、いくつかのパターンを教材化していますので、この教材を受講者がアクティブ(能動的)に学んでアクティブラーナーとなり、将来教員になって、あるいは就職した後教育係となって、子供の親となって、アクティブラーニングの実践ができるようになることを目指しています。				☑
22. 授業の目的及び 主旨／授業科目の主 題	・学習者が主体的に学ぶとはどういうことかわかる。 ・学習者が主体的に学ぶためにどのようなサポートが必要かわかる。				☑
23. 授業の到達目標 ／学修課題	アクティブラーニングを実施する上で、どのような準備(環境整備)が必要か説明できる。 失敗しないグループワークのために、必要なことが3つ以上言える。 学習者の参加を促すために、注意を払わなければならないこと(教員の視点)が3つ言える。 試験紙法の手順が説明できる。				☑

	PBLが効果的な授業と、試験紙法が効果的な授業のタイプ分けができる。	
24. ディプロマ・ポリシー (卒業時の到達目標・共通教育の理念・教育方針に関わる項目)		
25. カリキュラムマップ (授業科目の主題・授業科目の到達目標とカリキュラムマップ)		
26. 授業スケジュール ／授業計画並びに授業及び学習の方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 初回の授業ですべきこと</li> <li>3 授業の最初にすべきこと</li> <li>4 学生からのフィードバックを得る方法</li> <li>5 失敗しないグループワークのために</li> <li>6 勉強の仕方を教える</li> <li>7 反転授業をやってみよう</li> <li>8 プレゼンテーションのコツ</li> <li>9 ICTを使う</li> </ol> <p>補助教材 Tips9 支援の必要な学生に対応した授業の工夫</p> <p>【授業及び学習の方法】</p> <p>全回オンデマンド型(非同期型遠隔講義)で行われます。Webテキストを使ってよく予習をし、レポートを提出した後、指定された期限までに章末テストに解答する順序で学習します。</p> <p>詳細については、初回のコンテンツに記載しているのでそちらを参照すること。</p>	<input checked="" type="checkbox"/>
27. 授業時間外学習にかかわる情報	<p>【レポートの書き方】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・準備として、Webテキストを読み、パラグラフごとに説明文をノートに書いてみましょう。ノートに書いた中から、3つを選んでレポートとして提出してもらいます。ただし、レポートには異なるパラグラフから1文ずつを選ぶこと。</li> <li>・説明文は1文にひとつの事柄を、具体的に書くこと。二つ以上の事柄を1文で書いてある場合や、2つ以上の文章で説明している場合、内容に間違いがある場合、文法的な間違いがある場合は再提出を求めます。また、主語と述語がそろっていない場合も再提出とします。</li> <li>*章末問題の正解の選択肢を書くつもりで書いて下さい。</li> <li>・提出されたレポートにはコメントを返すので、コメントを見て参考とすること。ただし問題ない場合には「OK」、よく書かれている場合には「Good」とだけ返します。再提出が必要な場合には「再提出」と返します。</li> <li>・レポートの最初の行には、タイトルを付けること。表紙は不要、タイトルはレポートの中身を表すものを自分で考えて付けること。2行目には自分の氏名、所属、学年を書くこと。1行空け、4行目から要約文を三つ書くこと。</li> <li>*毎回要約文を4つ以上書いた場合は加点とします。</li> <li>・レポートのファイル名は、学籍番号v章番号とすること。(例:b143c021v4.docx)</li> <li>・レポートはWordまたはPagesで作成し、圧縮せずに提出すること。</li> </ul>	<input checked="" type="checkbox"/>

	<p>・レポートはすべて提出すること。再提出が必要なのにしていなかった場合、提出していなかった場合は成績評価を行わない場合があります。</p>					
28. 成績評価の方法と基準	<p>毎回のレポート 30%</p> <p>毎回のレポート追加点 10%</p> <p>毎回4つ以上の説明文を作成しており, Goodの評価を受けている場合の加点</p> <p>章末テスト 50%</p> <p>十分な予習時間をとり, 間違えずに短時間で全問正解すること。誤答すると減点されます。</p> <p>フォーラムでのコメント 10%</p> <p>フォーラムでの学生同士の活発な議論に参加していること。</p>			<input checked="" type="checkbox"/>		
29. 再試験の有無	自大学学生向け	なし		<input checked="" type="checkbox"/>		
	連携大学学生向け	なし				
30. 受講の条件／先行科目／受講人数制限	<p>受講人数制限:あり</p> <p>香川大学20名・徳島大学20名・鳴門教育大学20名・高知大学20名・愛媛大学20名</p>			<input checked="" type="checkbox"/>		
31. 受講のルール履修上の注意・担当教員からのメッセージ／履修希望学生に求めるもの	<p>各週の章末テスト問題に, 解答期限を設定しています。テストを受ける前にレポートを提出するため, レポート締切も同時期と考えて下さい。全てのレポートを提出し, 試験に解答すること。未提出のレポートや未回答のテストがある場合, 0点と評価します。</p> <p>* 締切に遅れても, 必ずレポートを提出し, 試験に解答してください。</p> <p>* 試験は2回受験可能で, 2回解答した場合は平均点を成績とします。</p> <p>* 締切後にレポートをチェックし, コメントを返します。コメントを確認してください。レポートは, サイエンスコミュニケーションの練習のために書くものです。そのための評価基準を設定していますので, 「受講の仕方」をよく読んで下さい。長い長いレポートを出す人がいますが, その場合は再提出にします。</p>			<input checked="" type="checkbox"/>		
32. 教科書(購入の必要のある図書)	教科書1	書名			<input type="checkbox"/>	
		ISBN		著者名		
		出版社		出版年		
		金額		備考		
33. 教科書・参考書に関する補足情報	参考書1	書名			<input type="checkbox"/>	
		ISBN		著者名		
		出版社		出版年		
		金額		備考		
	参考書2	書名				
		ISBN		著者名		
		出版社		出版年		
		金額		備考		
	参考書3	書名				
		ISBN		著者名		
		出版社		出版年		
		金額		備考		

34. Webテキスト (URL・説明)	大学連携e-Learning教育支援センター四国(知プラ)ホームページ <a href="http://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/">http://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/</a>		<input checked="" type="checkbox"/>
35. パソコン必要度	必要	36. 資格等／本科目受講が必要となる資格等 ／資格取得該当科目	なし <input type="checkbox"/>
37. 教員相互参観授業公開日程			<input type="checkbox"/>
38. オフィスアワー	自大学 学生向け	なし	<input type="checkbox"/>
	連携大学 学生向け	(Skype等webで対応できる場合のみ) なし	<input type="checkbox"/>
39. 連絡先／学生相談場所／学生開示用メール	自大学 学生向け	Moodle内のコミュニケーションツール(フォーラム)を利用すること。	<input checked="" type="checkbox"/>
	連携大学 学生向け	Moodle内のコミュニケーションツール(フォーラム)を利用すること。	<input checked="" type="checkbox"/>
40. その他／備考	なし		<input type="checkbox"/>

## シラバス情報収集フォーマット(2016年6月改訂)

## 【記入要領】

1. 下記の**緑色部分**をご記入ください。(記入内容が無い場合は空白とせず無しと記入)
2. **グレー部分**は大学ごとに異なるため必要に応じて個別に対応をお願いする項目です。
3. **白色部分**はあらかじめ想定内容を記入しています。
4. 教員から学生へ必ず伝えてほしい内容についてはチェックボックスへチェックを入れて下さい。(各大学のシラバスに必ず記載されません)

1. 開講年度	2018		2. 開講学期	第2学期	
3. 開講学部・学科等 ／区分等	共通教育		4. 授業形態／授業種別	eラーニング	
5. 授業科目区分／科目 分野／科目区分／区分等	教養科目自然分野		6. DPコード／分野コード ／科目ナンバリング		
7. 科目名／科目英文 名／英文併記	(日本語名) インタフェースデザイン概論 (英文名) Introduction to Interface Design				
8. 副題(日本語・英語)	(日本語名) なし (英文名) なし				
9. 担当教員名(教員 ローマ字表記)	(日本語) 三好 康夫 (ローマ字) MIYOSHI Yasuo				
10. 時間割コード／申請 コード／授業コード			11. 昼夜		
12. 単位数	1		13. 選必区分／単位区分	なし	
14. 対象学生	1年次以降／全学部		15. 対象年次／区分等 ／標準履修年次	1年次以降／全学部	
16. 曜日・時限	なし		17. 講義室		
18. 履修推奨科目	自大学 学生向け	特になし	19. 関連科目(関連科目 コード番号)	自大学 学生向け	特になし
	連携大学 学生向け	特になし		連携大学 学生向け	特になし
20. 授業のキーワード ／英文キーワード(3 つ以上5つ以下)	ヒューマンインタフェース, 入力デバイス, インタラクションデザイン, 情報デザイン Human Interface, Input Devices, Interaction Design, Information Design				
21. 授業概要	本授業では、ヒューマンインタフェースの概念や人間の特性、情報システムの使いやすさ等について概説し、主にソフトウェアのユーザインタフェース設計手法について言及する。情報システム等の使いやすさの論理的な評価方法や、使いやすさを意識した GUI 設計の考え方を学ぶ。				<input checked="" type="checkbox"/>
22. 授業の目的及び 主旨／授業科目の主 題	・ヒューマンインタフェースの概念を学び、情報システムの使いやすさについて考える。 ・Web デザインやスマートフォン・タブレットアプリ開発の手法や、情報デザインとインタラクションデザインの考え方を学ぶ。				<input type="checkbox"/>
23. 授業の到達目標 ／学修課題	(1) 情報システム等の使いやすさを論理的に評価することができる (2) 使いやすさを意識した GUI 設計の考え方を説明できる				<input type="checkbox"/>

24. ディプロマ・ポリシー(卒業時の到達目標・共通教育の理念・教育方針に関わる項目)						
25. カリキュラムマップ(授業科目の主題・授業科目の到達目標とカリキュラムマップ)						
26. 授業スケジュール／授業計画並びに授業及び学習の方法	<p>【授業計画】</p> <p>※ 授業内容は変更になる可能性があります。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス, ヒューマンインタフェースとは</li> <li>2. Webやモバイル端末におけるヒューマンインタフェース</li> <li>3. コミュニケーション支援, インタラクションのデザイン</li> <li>4. 情報のデザイン, サイト設計, ユーザビリティ評価</li> <li>5. 人間の情報処理モデル, ヒューマンエラー, 人間サイドからの設計</li> <li>6. 情報入力系, 情報出力系, インタラクションの拡張</li> <li>7. ユーザのアシスト, ユニバーサルデザイン, 今後のヒューマンインタフェース</li> <li>8. ペーパープロトタイピング, 期末レポート</li> </ol>				☑	
27. 授業時間外学習にかかわる情報	e-Learning コンテンツの視聴確認も兼ねて, 各回において知識定着度を判定するための小テストを課しています。しっかり復習してから小テストを受験してください。				☑	
28. 成績評価の方法と基準	各回の小テストを計 50 点満点, 期末レポートを 50 点満点で評価し, 合計 60 点以上を合格とする。				☑	
29. 再試験の有無	自大学学生向け	なし			☐	
	連携大学学生向け	なし				
30. 受講の条件／先行科目／受講人数制限	<p>受講人数制限:あり</p> <p>香川大学 15 名・徳島大学 15 名・鳴門教育大学 15 名・高知大学 15 名・愛媛大学 15 名</p>				☑	
31. 受講のルール履修上の注意・担当教員からのメッセージ／履修希望学生に求めるもの	<p>第 1 回目から第 8 回目までの受講はすべて, インターネットに接続できるパソコンから Moodle とよばれる LMS(Learning Management System)にアクセスして e-Learning コンテンツを視聴する形態となる。動画コンテンツを視聴する際は, 話のポイントをノートに書き取るなど, 主体的な学習態度を心がけること。その他受講方法の詳細については, 第 1 回(ガイダンス)を参照されたい。</p>				☑	
32. 教科書(購入の必要のある図書)					☑	
	教科書 1	書名	イラストで学ぶヒューマンインタフェース			
		ISBN	978-4-06-153816-0	著者名		北原義典
		出版社	講談社	出版年		2011
		金額	2,600 円+税	備考		

33. 教科書・参考書に関する補足情報	参考書 1	書名				□
		ISBN		著者名		
		出版社		出版年		
		金額		備考		
	参考書 2	書名				
		ISBN		著者名		
		出版社		出版年		
		金額		備考		
	参考書 3	書名				
		ISBN		著者名		
		出版社		出版年		
		金額		備考		
34. Webテキスト (URL・説明)	大学連携 e-Learning 教育支援センター四国(知プラ)ホームページ <a href="http://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/">http://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/</a>				☑	
35. パソコン必要度	必要	36. 資格等／本科目受講が必要となる資格等／資格取得該当科目	なし 教職・その他( )		□	
37. 教員相互参観授業公開日程					□	
38. オフィスアワー	自大学 学生向け	電子メール(miyoshi+el@is.kochi-u.ac.jp)を利用してください			☑	
	連携大学 学生向け	電子メール(miyoshi+el@is.kochi-u.ac.jp)を利用してください			☑	
39. 連絡先／学生相談場所／学生開示用メール	自大学 学生向け	miyoshi+el@is.kochi-u.ac.jp			☑	
	連携大学 学生向け	miyoshi+el@is.kochi-u.ac.jp			☑	
40. その他／備考	高知大学工学部情報科学科の学生と、高知大学理学部応用理学科情報科学コースの学生は、学部の専門科目に「ヒューマン・コンピュータ・インタラクション(2年次以上対象)」という科目がありますので、この科目は履修せずにヒューマン・コンピュータ・インタラクションを履修するようにしてください。				☑	

## シラバス情報収集フォーマット(2016年6月改訂)

## 【記入要領】

1. 下記の**緑色部分**をご記入ください。(記入内容が無い場合は空白とせず無しと記入)
2. **グレー部分**は大学ごとに異なるため必要に応じて個別に対応をお願いする項目です。
3. **白色部分**はあらかじめ想定内容を記入しています。
4. 教員から学生へ必ず伝えてほしい内容についてはチェックボックスへチェック☑を入れて下さい。(各大学のシラバスに必ず記載されま  
す)

1. 開講年度	2018		2. 開講学期	第2学期	
3. 開講学部・学科等 ／区分等	共通教育		4. 授業形態／授業種 別	eラーニング	
5. 授業科目区分／科 目分野／科目区分／ 区分等	教養科目キャリア形成支援分野		6. DPコード／分野コー ド／科目ナンバリング		
7. 科目名／科目英文 名／英文併記	(日本語名) キャリアで活かすITリテラシー				
	(英文名) IT literacy for your Career				
8. 副題(日本語・英 語)	(日本語名) ITパスポートを学ぶ				
	(英文名) Lets' Study IT Passport				
9. 担当教員名(教員 ローマ字表記)	(日本語) 立川 明				
	(ローマ字) TATSUKAWA Akira				
10. 時間割コード／申 請コード／授業コード			11. 昼夜		
12. 単位数	1		13. 選必区分／単位区 分	なし	
14. 対象学生	全学部全学科		15. 対象年次／区分等 ／標準履修年次	1年生	
16. 曜日・時限	なし		17. 講義室		
18. 履修推奨科目	自大学 学生向け	なし	19. 関連科目(関連科 目コード番号)	自大学 学生向け	なし
	連携大学 学生向け	なし		連携大学 学生向け	なし
20. 授業のキーワード ／英文キーワード (3 つ以上5つ以下)	ITパスポート, ストラテジ, マネジメント, テクノロジ IT Passport, Strategy, management, technology				
21. 授業概要	ITパスポートの教科書に沿って、ストラテジ、マネジメント、テクノロジーの順に進めます。 まず教科書をよく読み、重要なポイントを説明文に起こしてみましょ。説明文のうち、具体的で重要な 事柄を3つ選んでレポートとして提出します。その上で章末問題に解答しましょ。				<input checked="" type="checkbox"/>
22. 授業の目的及び 主旨／授業科目の主 題	社会の活動を理解する。 社会でのITの活用を理解する。				<input checked="" type="checkbox"/>
23. 授業の到達目標 ／学修課題	企業活動にはどのようなものがあるか、3つ言える。 マネジメントにはどのようなものがあるか、3つ言える。 テクノロジーにはどのようなものがあるか、3つ言える。				<input checked="" type="checkbox"/>

24. ディプロマ・ポリシー (卒業時の到達目標・共通教育の理念・教育方針に関わる項目)	
25. カリキュラムマップ (授業科目の主題・授業科目の到達目標とカリキュラムマップ)	
26. 授業スケジュール ／授業計画並びに授業及び学習の方法	<p>第1回 授業概要および準備学修</p> <p>第2回 ストラテジ系(前半)</p> <p>第3回 ストラテジ系(後半)</p> <p>第4回 マネジメント系</p> <p>第5回 前半のまとめテスト</p> <p>第6回 テクノロジ系(基礎理論)</p> <p>第7回 テクノロジ系(コンピュータシステム)</p> <p>第8回 テクノロジ系(技術要素)</p> <p>第9回 期末試験</p> <p>【授業及び学習の方法】</p> <p>全回オンデマンド型(非同期型遠隔講義)で行われます。教科書を使ってよく予習をし、レポートを提出した後、指定された期限までに章末試験に解答する順序で学習する。</p> <p>詳細については、コースのトップに記載している「受講の仕方」を参照すること。</p>
27. 授業時間外学習にかかわる情報	<p>【レポートの書き方】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・準備として、Webテキストを読み、パラグラフごとに説明文をノートに書いてみましょう。ノートに書いた中から、3つを選んでレポートとして提出してもらいます。ただし、レポートには異なるパラグラフから1文ずつを選ぶこと。</li> <li>・説明文は1文にひとつの事柄を、具体的に書くこと。二つ以上の事柄を1文で書いてある場合や、2つ以上の文章で説明している場合、内容に間違いがある場合、文法的な間違いがある場合は再提出を求めます。また、主語と述語がそろっていない場合も再提出とします。</li> <li>*章末問題の正解の選択肢を書くつもりで書いて下さい。</li> <li>・提出されたレポートにはコメントを返すので、コメントを見て参考とすること。ただし問題ない場合には「OK」、よく書かれている場合には「Good」とだけ返します。再提出が必要な場合には「再提出」と返します。</li> <li>・レポートの最初の行には、タイトルを付けること。表紙は不要、タイトルはレポートの中身を表すものを自分で考えて付けること。2行目には自分の氏名、所属、学年を書くこと。1行空け、4行目から要約文を三つ書くこと。</li> <li>*毎回要約文を4つ以上書いた場合は加点とします。</li> <li>・レポートのファイル名は、学籍番号v章番号とすること。(例:b143c021v4.docx)</li> <li>・レポートはWordまたはPagesで作成し、圧縮せずに提出すること。</li> <li>・レポートはすべて提出すること。再提出が必要なのにしていなかった場合、提出していなかった場合は成績評価を行わない場合があります。</li> </ul>

28. 成績評価の方法と基準	<p>毎回のレポート 20%</p> <p>毎回のレポート追加点 10%</p> <p>毎回4つ以上の説明文を作成しており, Goodの評価を受けている場合の加点点</p> <p>章末テスト 50%</p> <p>十分な予習時間をとり, 間違えずに短時間で全問正解すること。誤答するたびに減点されます。</p> <p>期末試験 20%</p> <p>章末問題と同様の問題です。早く正確に解答すること。誤答するたびに減点されます。</p>				<input checked="" type="checkbox"/>		
29. 再試験の有無	自大学学生向け	なし			<input checked="" type="checkbox"/>		
	連携大学学生向け	なし					
30. 受講の条件／先行科目／受講人数制限	<p>受講人数制限:あり</p> <p>香川大学20名・徳島大学20名・鳴門教育大学20名・高知大学20名・愛媛大学20名</p>				<input checked="" type="checkbox"/>		
31. 受講のルール履修上の注意・担当教員からのメッセージ／履修希望学生に求めるもの	<p>各週の章末問題に, 解答期限を設定しています。テストを受ける前にレポートを提出するため, レポート締切も同時期と考えて下さい。全てのレポートを提出し, 試験に解答すること。未提出のレポートや未回答のテストがある場合, 0点と評価します。</p> <p>* 締切に遅れても, 必ずレポートを提出し, 試験に解答してください。</p> <p>* 試験は最初の解答を成績につけます。</p> <p>* 締切後にレポートをチェックし, コメントを返します。コメントを確認してください。レポートは, サイエンスコミュニケーションの練習のために書くものです。そのための評価基準を設定していますので, 「受講の仕方」をよく読んで下さい。長い長いレポートを出す人がいますが, その場合は再提出とします。</p>				<input checked="" type="checkbox"/>		
32. 教科書(購入の必要のある図書)	教科書1	書名	ITパスポートのよくわかる教科書			<input checked="" type="checkbox"/>	
I S B N		9784774178509	著者名	福嶋宏訓			
出版社		技術評論社	出版年	2016			
金額		1280円	備考				
33. 教科書・参考書に関する補足情報	参考書1	書名				<input type="checkbox"/>	
		I S B N		著者名			
		出版社		出版年			
		金額		備考			
	参考書2	書名					
		I S B N		著者名			
		出版社		出版年			
		金額		備考			
	参考書3	書名					
		I S B N		著者名			
		出版社		出版年			
		金額		備考			
34. Webテキスト(URL・説明)	<p>大学連携e-Learning教育支援センター四国(知プラ)ホームページ</p> <p><a href="http://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/">http://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/</a></p>				<input checked="" type="checkbox"/>		

35. パソコン必要度	必要	36. 資格等／本科目受講が必要となる資格等 ／資格取得該当科目	なし	<input type="checkbox"/>
37. 教員相互参観授業公開日程				<input type="checkbox"/>
38. オフィスアワー	自大学 学生向け	なし		<input type="checkbox"/>
	連携大学 学生向け	(Skype等webで対応できる場合のみ) なし		<input type="checkbox"/>
39. 連絡先／学生相談場所／学生開示用メール	自大学 学生向け	Moodle内のコミュニケーションツール(フォーラム)を利用すること。		<input checked="" type="checkbox"/>
	連携大学 学生向け	Moodle内のコミュニケーションツール(フォーラム)を利用すること。		<input checked="" type="checkbox"/>
40. その他／備考	なし			<input type="checkbox"/>

## シラバス情報収集フォーマット(2016年6月改訂)

## 【記入要領】

1. 下記の**緑色部分**をご記入ください。(記入内容が無い場合は空白とせず無しと記入)
2. **グレー部分**は大学ごとに異なるため必要に応じて個別に対応をお願いする項目です。
3. **白色部分**はあらかじめ想定内容を記入しています。
4. 教員から学生へ必ず伝えてほしい内容についてはチェックボックスへチェック☑を入れて下さい。(各大学のシラバスに必ず記載されません)

1. 開講年度	2018		2. 開講学期	第2学期	
3. 開講学部・学科等 ／区分等	共通教育		4. 授業形態／授業種別	eラーニング	
5. 授業科目区分／科目 分野／科目区分／ 区分等	教養科目自然分野		6. DPコード／分野コード ／科目ナンバリング		
7. 科目名／科目英文 名／英文併記	(日本語名) サイエンスリテラシーの化学 (英文名) Chemistry of Science Literacy				
8. 副題(日本語・英語)	(日本語名) すべての大学一年生のための化学入門 (英文名) Introduction of Chemistry				
9. 担当教員名(教員 ローマ字表記)	(日本語) 立川 明 (ローマ字) TATSUKAWA Akira				
10. 時間割コード／申請 コード／授業コード			11. 昼夜		
12. 単位数	2		13. 選必区分／単位区分	なし	
14. 対象学生	全学部全学科		15. 対象年次／区分等 ／標準履修年次	1年生	
16. 曜日・時限	なし		17. 講義室		
18. 履修推奨科目	自大学 学生向け	なし	19. 関連科目(関連科目 コード番号)	自大学 学生向け	なし
	連携大学 学生向け	なし		連携大学 学生向け	なし
20. 授業のキーワード ／英文キーワード (3 つ以上5つ以下)	化学, 無機化学, 有機化学 Chemistry, Inorganic Chemistry, Organic Chemistry				
21. 授業概要	<p>教科書に沿って, 酸塩基, 衣服, 洗濯, プラスティック, 料理, コロイド, 医薬品, 石油, セラミックス, 電池, 家電, 三態, 環境の順に進めます。</p> <p>まず自分で教科書をよく読んでください。その上で説明文をノートに書いてみましょう。説明文の中から, 具体的で重要な事柄を各パラグラフから1つ選び, 説明文を完成させます。1つの事柄を1文で具体的かつ簡潔に表現してください。異なるパラグラフから1文ずつ特に重要なものを選んで3つ(以上)をレポートとして提出します。</p> <p>レポートを提出したら, PDF教材を見てください。教材にはいろいろな質問や問いかけがあります。力試ししてください。</p> <p>最後に章末問題に解答します。</p> <p>質問がある場合はフォーラムに書き込んでください。</p>				



22. 授業の目的及び主旨／授業科目の主題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この授業に主体的に取り組むことにより、あなたは身の回りに存在する化学物質の知識を得ることができます。</li> <li>・化学の知識を得ることにより、持続可能で健康的な生活を送るために必要な正しい選択ができるようになります。</li> </ul>	<input checked="" type="checkbox"/>
23. 授業の到達目標／学修課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みのまわりのものを化学物質としてとらえることができる</li> <li>・みのまわりに起こる事柄を化学変化としてとらえることができる</li> <li>・教科書で扱われている化学物質の構造が正しくかける</li> <li>・教科書で扱われている化学反応式が正しくかける</li> <li>・教科書で扱われている事柄をわかりやすく、相手によって化学の専門用語を使い、あるいは使わずに伝えることができる</li> </ul>	<input checked="" type="checkbox"/>
24. ディプロマ・ポリシー（卒業時の到達目標・共通教育の理念・教育方針に関わる項目）		
25. カリキュラムマップ（授業科目の主題・授業科目の到達目標とカリキュラムマップ）		
26. 授業スケジュール／授業計画並びに授業及び学習の方法	<p><b>【授業計画】</b></p> <p>第1週 受講の仕方、「化学って何だ？」</p> <p>第2週 「真水・お酢・石けん水の違いつて？」</p> <p>第3週 「衣服は第二の皮膚」</p> <p>第4週 「環境にやさしい洗濯を」</p> <p>第5週 「もっとも身近でもっとも不思議な物質」</p> <p>第6週 「生活材料今昔物語」</p> <p>第7週 「お料理は化学実験」</p> <p>第8週 「生活を彩る驚異の粒子」</p> <p>第9週 「化学の力で命を守る」</p> <p>第10週 「身の回りには石油製品がいっぱい！」</p> <p>第11週 「現代生活を支えるすぐれモノたち」</p> <p>第12週 「電気パワーが社会を明るくする」</p> <p>第13週 「身の回りの電気製品をカガクする」</p> <p>第14週 「物質は自在に変わる」</p> <p>第15週 「化学は未来をひらく」</p> <p>第16週 期末試験</p> <p><b>【授業及び学習の方法】</b></p> <p>全回オンデマンド型(非同期型遠隔講義)で行われます。教科書を使ってよく予習をし、レポートを提出した後、インターネットで配信されるeラーニング教材を大学や自宅などで視聴し、指定された期限までに章末試験に解答する順序で学習する。</p> <p>詳細については、コースのトップに記載している「受講の仕方」を参照すること。</p>	<input checked="" type="checkbox"/>
27. 授業時間外学習にかかわる情報	<p><b>【授業及び学習の方法】</b></p> <p>教科書をよく読み、レポートを提出してから教材に取り組むこと。詳細はコースのトップに記載している「受講の仕方」を見ること。</p>	<input checked="" type="checkbox"/>

	<p>【レポートの書き方】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・準備として、教科書を読み、パラグラフごとに説明文をノートに書いてみましょう。ノートに書いた中から、3つ(以上)を選んでレポートとして提出してもらいます。ただし、レポートには異なるパラグラフから1文ずつを選ぶこと。</li> <li>・説明文は1文にひとつの事柄を、具体的に書くこと。二つ以上の事柄を1文で書いてある場合や、2つ以上の文章で説明している場合、内容に間違いがある場合、文法的な間違いがある場合は再提出を求めます。また、主語と述語がそろっていない場合も再提出とします。</li> <li>*章末問題の正解の選択肢を書くつもりで書いて下さい。</li> <li>・提出されたレポートにはコメントを返すので、コメントを見て参考とすること。ただし問題ない場合には「OK」、よく書かれている場合には「Good」とだけ返します。再提出が必要な場合には「再提出」と返します。</li> <li>・レポートの最初の行には、タイトルを付けること。表紙は不要、タイトルはレポートの中身を表すものを自分で考えて付けること。2行目には自分の氏名、所属、学年を書くこと。1行空け、4行目から要約文を三つ書くこと。</li> <li>*毎回要約文を4つ以上書いた場合は加点とします。</li> <li>・レポートのファイル名は、学籍番号v章番号とすること。(例:b143c021v4.docx)</li> <li>・レポートはWordまたはPagesで作成し、圧縮せずに提出すること。</li> <li>・レポートはすべて提出すること。再提出が必要なのにしていなかった場合、提出していなかった場合は成績評価を行わない場合があります。</li> </ul>					
28. 成績評価の方法と基準	<p>毎回のレポート 20%</p> <p>毎回のレポート追加点 10%</p> <p>毎回4つ以上の説明文を作成しており、Goodの評価を受けている場合の加点</p> <p>章末テスト 50%</p> <p>十分な予習時間をとり、間違えずに短時間で10問正解すること。誤答するたびに減点されます。</p> <p>期末試験 20%</p> <p>章末問題と同様の問題です。早く正確に解答すること。誤答するたびに減点されます。</p>	☑				
29. 再試験の有無	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">自大学学生向け</td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td>連携大学学生向け</td> <td>なし</td> </tr> </table>	自大学学生向け	なし	連携大学学生向け	なし	☑
自大学学生向け	なし					
連携大学学生向け	なし					
30. 受講の条件／先行科目／受講人数制限	<p>受講人数制限:あり</p> <p>香川大学20名・徳島大学20名・鳴門教育大学20名・高知大学20名・愛媛大学20名</p>	☑				
31. 受講のルール履修上の注意・担当教員からのメッセージ／履修希望学生に求めるもの	<p>各週の章末テスト問題に、解答期限を設定しています。テストを受ける前にレポートを提出するため、レポート締切も同時期と考えて下さい。全てのレポートを提出し、試験に解答すること。未提出のレポートや未回答のテストがある場合、0点と評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 締切に遅れても、必ずレポートを提出し、試験に解答してください。</li> <li>* 試験は2回受験可能で、2回解答した場合は平均点を成績とします。</li> <li>* 締切後にレポートをチェックし、コメントを返します。コメントを確認してください。レポートは、サイエンスコミュニケーションの練習のために書くものです。そのための評価基準を設定していますので、「受講の仕方」をよく読んで下さい。長い長いレポートを出す人がいますが、その場合は再提出とします。</li> </ul>	☑				

32. 教科書(購入の必要のある図書)	教科書1	書名	「身の回りから見た化学の基礎」			<input checked="" type="checkbox"/>
		ISBN	9784759812923	著者名	芝原 寛泰、後藤 景子	
		出版社	化学同人	出版年	2009	
		金額	1,944円	備考		
33. 教科書・参考書に関する補足情報	参考書1	書名				<input type="checkbox"/>
		ISBN		著者名		
		出版社		出版年		
		金額		備考		
	参考書2	書名				
		ISBN		著者名		
		出版社		出版年		
		金額		備考		
	参考書3	書名				
		ISBN		著者名		
		出版社		出版年		
		金額		備考		
34. Webテキスト(URL・説明)	大学連携e-Learning教育支援センター四国(知プラ)ホームページ <a href="http://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/">http://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/</a>				<input checked="" type="checkbox"/>	
35. パソコン必要度	必要	36. 資格等／本科目受講が必要となる資格等／資格取得該当科目	なし		<input checked="" type="checkbox"/>	
37. 教員相互参観授業公開日程					<input type="checkbox"/>	
38. オフィスアワー	自大学 学生向け	なし			<input type="checkbox"/>	
	連携大学 学生向け	(Skype等webで対応できる場合のみ) なし			<input type="checkbox"/>	
39. 連絡先／学生相談場所／学生開示用メール	自大学 学生向け	Moodle内のコミュニケーションツール(フォーラム)を利用すること。			<input checked="" type="checkbox"/>	
	連携大学 学生向け	Moodle内のコミュニケーションツール(フォーラム)を利用すること。			<input checked="" type="checkbox"/>	
40. その他／備考	なし				<input type="checkbox"/>	

## シラバス情報収集フォーマット(2016年6月改訂)

## 【記入要領】

1. 下記の**緑色部分**をご記入ください。(記入内容が無い場合は空白とせず無しと記入)
2. **グレー部分**は大学ごとに異なるため必要に応じて個別に対応をお願いする項目です。
3. **白色部分**はあらかじめ想定内容を記入しています。
4. 教員から学生へ必ず伝えてほしい内容についてはチェックボックスへチェック☑を入れて下さい。(各大学のシラバスに必ず記載されま  
す)

1. 開講年度	2018		2. 開講学期	第1学期	
3. 開講学部・学科等 ／区分等	農林海洋科学部		4. 授業形態／授業種 別	eラーニング	
5. 授業科目区分／科 目分野／科目区分／ 区分等	専門教育)専門科目		6. DPコード／分野コー ド／科目ナンバリング		
7. 科目名／科目英文 名／英文併記	(日本語名) 海洋基礎生態学 (英文名) Fundamental Marine Ecology				
8. 副題(日本語・英 語)	(日本語名) 海洋生態系の低次生産・消費・分解と物質循環について学ぶ (英文名) Marine Ecosystems and Material Cycling				
9. 担当教員名(教員 ローマ字表記)	(日本語) 深見 公雄 (ローマ字) FUKAMI Kimio				
10. 時間割コード／申 請コード／授業コード			11. 昼夜		
12. 単位数	2		13. 選必区分／単位区 分	なし	
14. 対象学生	特に指定なし		15. 対象年次／区分等 ／標準履修年次	2	
16. 曜日・時限	なし		17. 講義室		
18. 履修推奨科目	自大学 学生向け	黒潮圏科学の魅力、生 態系への人為的インパ クト、海洋微生物学	19. 関連科目(関連科 目コード番号)	自大学 学生向け	黒潮圏科学の魅力 (04012)、生態系への人為 的インパクト(04021)、海洋 微生物学(80188)
	連携大学 学生向け	なし		連携大学 学生向け	なし
20. 授業のキーワード ／英文キーワード (3 つ以上5つ以下)	海洋生態系, 物質循環, 低次生産, 微生物生態, 海洋環境保全 Marine Ecosystem, Material Cycling, Lower Trophic Level, Microbial Ecology, Marine Environment Conservation				
21. 授業概要	<p>海洋生態系における有機物の低次生産・消費・分解・無機化のメカニズムを解説したあと、このような海洋の物質循環に影響を与える環境要因はなにか、健全な海洋環境とはどんなものか、また海洋生態系のバランスが崩れるとどのような影響が出始めるのか、それを防ぐにはどうすればよいかといった環境保全について考える。</p> <p>本授業はe-learning形式で実施しており、履修希望者は、あらかじめ履修登録のうえ、e-learningに必要な手続きをしておく必要がある。講義コンテンツはMoodle(LMS)システムを通して配信するので、Moodleの使い方等について十分理解しておくこと。受講に関する様々な指示や注意点等はLMS上に掲載するので、必ず目を通しておくこと。その上で、講義の聴講は各自の時間スケジュールに合わせて、自由に</p>				☑

	<p>「いつでも、どこでも、何度でも」講義を聴くことが可能である。全講義内容を3ブロックに分割し、第1ブロックは4月、第2ブロックは5月、第3ブロックは6月に、それぞれ配信開始する予定である。</p> <p>受講者は、定められた期限までに全てのモジュール(コンテンツ)を聴講し、小テスト等に解答することが求められる。詳細については、LMS上で連絡をする。</p>	
<p>22. 授業の目的及び主旨／授業科目の主題</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 海洋生態系における有機物生産・消費・分解・無機化のメカニズムを理解する。</li> <li>2. このような海洋の物質循環に影響を与える環境要因はなにかを知る。</li> <li>3. これらの知識を元に、健全な海洋環境とはどんなものか、また海洋生態系のバランスが崩れるとどのような影響が出始めるのか、それを防ぐにはどうすればよいかといった環境保全について自分なりの考えを構築する。</li> </ol>	<input checked="" type="checkbox"/>
<p>23. 授業の到達目標／学修課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○海洋生態系の概要を理解し、海洋環境で起こっている生物学的・化学的現象に関する基礎知識を持つ。</li> <li>○今日の海洋および地球環境問題を認識する。</li> <li>○今後の我が国および世界の海洋環境のあり方およびその保全に関連する新聞記事やテレビ番組等に対して理解でき、自分なりの考え方を持てる。</li> </ul>	<input checked="" type="checkbox"/>
<p>24. ディプロマ・ポリシー(卒業時の到達目標・共通教育の理念・教育方針に関わる項目)</p>		
<p>25. カリキュラムマップ(授業科目の主題・授業科目の到達目標とカリキュラムマップ)</p>		
<p>26. 授業スケジュール／授業計画並びに授業及び学習の方法</p>	<p>【授業スケジュール】</p> <p>第1回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>0. 受講のガイダンス・・・授業の進め方・構成. 受講に当たっての留意事項</li> <li>1. 「海洋基礎生態学」で何を学ぶのか？参考図書</li> <li>2. 物質循環の概要 (1)有機物の生産と分解</li> </ul> <p>第2回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2. 物質循環の概要(続き) (2)有機物の存在形態</li> </ul> <p>第3回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>3. 有機物の生産 (1)植物プランクトン (2)無機栄養塩</li> </ul> <p>第4回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>3. 有機物の生産(続き) (3)クロロフィルaと現存量 (4)一次生産量と生産力</li> </ul> <p>第5回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>3. 有機物の生産(続き) (4)一次生産量と生産力(続き)</li> </ul> <p>第6回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>3. 有機物の生産(続き) (5)新生産と再生産 (6)測定法 (7)支配要因</li> </ul> <p>第7回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>3. 有機物の生産(続き) (8)熱水鉱床</li> <li>4. 捕食 (1)動物プランクトン</li> </ul> <p>第8回</p>	<input checked="" type="checkbox"/>

	<p>4. 捕食(続き) (2)捕食食物連鎖 (3)従属栄養性微小鞭毛虫 (4)微生物食物連鎖 第9回</p> <p>5. 有機物の分解 (1)従属栄養細菌 (2)現存量 (3)活性と分解速度 (4)生体成分の分解 第10回</p> <p>6. 海水中に存在する有機物 (1)溶存態有機物(DOM) 1) DOMの生産 2) 化学組成 3) 生態学的意義 第11回</p> <p>6. 海水中に存在する有機物(続き) (2)粒状有機物(POM) 1) POMの生産 2) 分布 3)化学組成 4)生体遺骸(デトライタス) 第12回</p> <p>7. 沈降粒子による物質の鉛直輸送 (1)糞粒 (2)深海への有機物供給 8. 海底堆積物 第13回</p> <p>9. 窒素(N)の循環 (1)アンモニア生成 (2)硝化作用 (3)硝酸還元・脱窒 (4)窒素固定 (5)窒素無機栄養塩の取り込み 第14回</p> <p>10. リン(P)の循環 第15回</p> <p>11. 硫黄(S)の循環 (1)硫黄化合物の分解 (2)硫酸塩還元 (3)硫黄化合物の酸化とイオウ細菌 第16回 期末試験</p>					
27. 授業時間外学習にかかわる情報	日ごろから、授業を通して学んだことと環境や生態系に関するテレビ番組や新聞記事等と結びつけ、授業内容を思い出す習慣を身につけることを求める。	<input checked="" type="checkbox"/>				
28. 成績評価の方法と基準	<p>毎講義終了時に課す小テストの結果の合計を評価の50%、すべての講義終了後に実施する期末試験の結果を評価の50%とする。なお、各モジュール内の学修活動(動画の聴講やテストへの解答等)は出席に相当し、全15回のうち10回以上の小テスト提出を以て期末試験の受験要件とする。</p> <p>※小テストは1回10点満点とし、15回の合計得点を1/3して小テストの得点とする。標準点は6点とする。すなわち、全15回の小テストにすべて解答したとしても、毎回6点の場合には、合計得点は6×15=90点となり、小テストの得点は30点となる。</p>	<input checked="" type="checkbox"/>				
29. 再試験の有無	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="343 1556 566 1601">自大学学生向け</td> <td data-bbox="566 1556 1412 1601">原則として実施しないが、特別の事情がある場合には相談のこと</td> </tr> <tr> <td data-bbox="343 1601 566 1646">連携大学学生向け</td> <td data-bbox="566 1601 1412 1646">原則として実施しないが、特別の事情がある場合には相談のこと</td> </tr> </table>	自大学学生向け	原則として実施しないが、特別の事情がある場合には相談のこと	連携大学学生向け	原則として実施しないが、特別の事情がある場合には相談のこと	<input checked="" type="checkbox"/>
自大学学生向け	原則として実施しないが、特別の事情がある場合には相談のこと					
連携大学学生向け	原則として実施しないが、特別の事情がある場合には相談のこと					
30. 受講の条件／先行科目／受講人数制限	受講人数制限:あり 高知大学以外の学生については、各大学とも最大10名とする。	<input checked="" type="checkbox"/>				
31. 受講のルール履修上の注意・担当教員からのメッセージ／履修希望学生に求めるもの	<p>【履修希望学生に求めるもの】</p> <p>高知大学の旧農学部海洋生物生産学コース・自然環境学コース、また改組後の農林海洋科学部海洋資源科学科の学生にとっては必修科目であるが、両コース以外や他大学の学生であっても、海の生態学や物質循環、あるいは海洋環境に興味のある学生は受講することが望ましい。</p>	<input checked="" type="checkbox"/>				

32. 教科書(購入の必要のある図書)	教科書1	書名			<input type="checkbox"/>	
		ISBN		著者名		
		出版社		出版年		
		金額		備考		
33. 教科書・参考書に関する補足情報	参考書1	書名			<input type="checkbox"/>	
		ISBN		著者名		
		出版社		出版年		
		金額		備考		
	参考書2	書名				
		ISBN		著者名		
		出版社		出版年		
		金額		備考		
	参考書3	書名				
		ISBN		著者名		
		出版社		出版年		
		金額		備考		
34. Webテキスト(URL・説明)	大学連携e-Learning教育支援センター四国(知プラ)ホームページ <a href="http://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/">http://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/</a>				<input type="checkbox"/>	
35. パソコン必要度	必要	36. 資格等／本科目受講が必要となる資格等 ／資格取得該当科目	なし	<input type="checkbox"/>		
37. 教員相互参観授業公開日程					<input type="checkbox"/>	
38. オフィスアワー	自大学 学生向け	火曜日の5時限(16:30-18:00)とする。ただしあらかじめ必ず連絡すること。			<input checked="" type="checkbox"/>	
	連携大学 学生向け	(Skype等webで対応できる場合のみ) なし			<input checked="" type="checkbox"/>	
39. 連絡先／学生相談場所／学生開示用メール	自大学 学生向け	物部キャンパス4号棟西棟(実験研究棟)1F南側			<input checked="" type="checkbox"/>	
	連携大学 学生向け	まずは教員のメールアドレス(fukami@kochi-u.ac.jp)へ相談内容等を送付のこと			<input checked="" type="checkbox"/>	
40. その他／備考	【備考】 海洋環境はまだまだ知られていない事が多々ある世界です。思いもよらないことが起こっている海洋生態系の興味深い側面、そしてその中の物質循環で大活躍する微生物の生態と役割について一緒に勉強してみませんか。				<input checked="" type="checkbox"/>	

## シラバス情報収集フォーマット(2016年6月改訂)

## 【記入要領】

1. 下記の**緑色部分**をご記入ください。(記入内容が無い場合は空白とせず無しと記入)
2. **グレー部分**は大学ごとに異なるため必要に応じて個別に対応をお願いする項目です。
3. **白色部分**はあらかじめ想定内容を記入しています。
4. 教員から学生へ必ず伝えてほしい内容についてはチェックボックスへチェック☑を入れて下さい。(各大学のシラバスに必ず記載されま  
す)

1. 開講年度	2018		2. 開講学期	第1学期	
3. 開講学部・学科等 ／区分等	農林海洋科学部		4. 授業形態／授業種 別	eラーニング	
5. 授業科目区分／科 目分野／科目区分／ 区分等	専門教育)専門科目		6. DPコード／分野コー ド／科目ナンバリング		
7. 科目名／科目英文 名／英文併記	(日本語名) 海洋地球科学概論 Marine Geoscience				
8. 副題(日本語・英 語)	(日本語名) 知られざる「海洋」の理解と地球における役割 (英文名) Oceanography and Earth Science				
9. 担当教員名(教員 ローマ字表記)	(日本語) 村山 雅史 (ローマ字) MURAYAMA Masafumi				
10. 時間割コード／申 請コード／授業コード			11. 昼夜		
12. 単位数	2		13. 選必区分／単位区 分	なし	
14. 対象学生	特に指定なし		15. 対象年次／区分等 ／標準履修年次	1年生	
16. 曜日・時限	なし		17. 講義室		
18. 履修推奨科目	自大学 学生向け	地球科学入門, 地球科 学概論	19. 関連科目(関連科 目コード番号)	自大学 学生向け	地球科学入門(04035) 地球科学概論(80915)
	連携大学 学生向け	なし		連携大学 学生向け	なし
20. 授業のキーワード ／英文キーワード (3 つ以上5つ以下)	海洋の動態, 海洋地球科学, 生物地球化学サイクル, 地球環境 / Oceanography, Marine Geoscience, Biogeochemical Cycle, Earth Environments				
21. 授業概要	太陽系惑星で唯一存在する海洋の成り立ちと役割について学び, 地球規模での様々な物質循環や気 候変動について理解する。				<input checked="" type="checkbox"/>
22. 授業の目的及び 主旨／授業科目の主 題	受講生は, 地球表層環境における海洋の果たす役割をよりよく理解するために, 海水の循環とそれにと もなう物質循環, 海底の動きや地球内部変動, 堆積物に刻まれた地球環境の歴史と生命の進化に関 する事を学ぶ。とくに, 海洋の成り立ちや地球誕生から表層圏(大気圏, 水圏, 地圏, 生物圏)の進化の 過程で, 海洋の果たしてきた役割を理解する。				<input checked="" type="checkbox"/>
23. 授業の到達目標 ／学修課題	海洋学の理解, 海洋地球科学の理解, 地球表層環境の理解, 学習手法の理解				<input checked="" type="checkbox"/>

24. ディプロマ・ポリシー(卒業時の到達目標・共通教育の理念・教育方針に関わる項目)			
25. カリキュラムマップ(授業科目の主題・授業科目の到達目標とカリキュラムマップ)			
26. 授業スケジュール／授業計画並びに授業及び学習の方法	<p>【授業スケジュール】</p> <p>第1回 地球における海洋の役割</p> <p>第2回 海はどのように形成されたか？</p> <p>第3回 海水の性質</p> <p>第4回 海の循環</p> <p>第5回 海の循環にともなう物質循環</p> <p>第6回 海底地形</p> <p>第7回 海底堆積物の種類I</p> <p>第8回 海底堆積物の種類II</p> <p>第9回 海洋観測(手法, 歴史, 船の生活)について</p> <p>第10回 海洋底に記録される環境の記憶</p> <p>第11回 新生代気候変動「地球寒冷化」</p> <p>第12回 地球温暖化と海洋酸性化</p> <p>第13回 プレートテクトニクス</p> <p>第14回 海底下生命圏の研究</p> <p>第15回 海底資源(メタンハイドレート)</p>		☑
27. 授業時間外学習にかかわる情報	参考図書を熟読すること, 受講ノートの復習		☑
28. 成績評価の方法と基準	<p>各講義の終了後に講義内容に関する10点満点の小テストをLMS上で実施する。定められた期限内に15回の講義コンテンツのうち最低10回以上の講義を聴き, 小テストに解答することが必須条件である。</p> <p>15回の講義終了時に, 15回の小テストの合計点(150点満点)を三分の二して100点満点に換算して成績をつける。</p> <p>なお期末試験は実施しない。</p>		☑
29. 再試験の有無	自大学学生向け	なし	☑
	連携大学学生向け	なし	
30. 受講の条件／先行科目／受講人数制限	<p>受講人数制限:あり</p> <p>香川大学10名・徳島大学10名・鳴門教育大学10名・高知大学なし・愛媛大学10名</p>		☑

<p>31. 受講のルール履修上の注意・担当教員からのメッセージ／履修希望学生に求めるもの</p>	<p>e-learning形式の講義であるため、履修に必要な手続きをしておく必要がある。講義コンテンツはMoodle(LMS)システムを通して配信するので、Moodleの使い方等について十分理解しておくこと。また、ノートを準備し、受講中に要点や専門用語を書き留めて、自分なりの講義ノートを作成すること。理解できなかった箇所は、推薦図書を参考に必ず復習をおこなうこと。</p>				<input checked="" type="checkbox"/>																																																																																																																							
<p>32. 教科書(購入の必要のある図書)</p>	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td rowspan="4" style="text-align: center;">教科書1</td> <td>書名</td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td>ISBN</td> <td></td> <td>著者名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>出版社</td> <td></td> <td>出版年</td> <td></td> </tr> <tr> <td>金額</td> <td></td> <td>備考</td> <td></td> </tr> </table>				教科書1	書名				ISBN		著者名		出版社		出版年		金額		備考		<input type="checkbox"/>																																																																																																						
教科書1	書名																																																																																																																											
	ISBN		著者名																																																																																																																									
	出版社		出版年																																																																																																																									
	金額		備考																																																																																																																									
<p>33. 教科書・参考書に関する補足情報</p>	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td rowspan="4" style="text-align: center;">参考書1</td> <td>書名</td> <td colspan="3">海洋地球化学</td> </tr> <tr> <td>ISBN</td> <td>978-4-06-155237-1</td> <td>著者名</td> <td>蒲生俊敬編</td> </tr> <tr> <td>出版社</td> <td>講談社サイエンティフィック</td> <td>出版年</td> <td>2014</td> </tr> <tr> <td>金額</td> <td></td> <td>備考</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="4" style="text-align: center;">参考書2</td> <td>書名</td> <td colspan="3">地球表層環境の進化-先カンブリア時代から近未来まで</td> </tr> <tr> <td>ISBN</td> <td>978-4-13-062720-7</td> <td>著者名</td> <td>川幡穂高</td> </tr> <tr> <td>出版社</td> <td>東大出版会</td> <td>出版年</td> <td>2008</td> </tr> <tr> <td>金額</td> <td></td> <td>備考</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="4" style="text-align: center;">参考書3</td> <td>書名</td> <td colspan="3">海洋地球環境学—生物地球化学循環から読む</td> </tr> <tr> <td>ISBN</td> <td>978-4-13-060752-0</td> <td>著者名</td> <td>川幡穂高</td> </tr> <tr> <td>出版社</td> <td>東大出版会</td> <td>出版年</td> <td>2011</td> </tr> <tr> <td>金額</td> <td></td> <td>備考</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="4" style="text-align: center;">参考書4</td> <td>書名</td> <td colspan="3">地質学I:地球のダイナミックス</td> </tr> <tr> <td>ISBN</td> <td>4-00-006240-9</td> <td>著者名</td> <td>平 朝彦</td> </tr> <tr> <td>出版社</td> <td>岩波書店</td> <td>出版年</td> <td>2001</td> </tr> <tr> <td>金額</td> <td></td> <td>備考</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="4" style="text-align: center;">参考書5</td> <td>書名</td> <td colspan="3">地質学II:地層の解読</td> </tr> <tr> <td>ISBN</td> <td>4-00-006241-7</td> <td>著者名</td> <td>平 朝彦</td> </tr> <tr> <td>出版社</td> <td>岩波書店</td> <td>出版年</td> <td>2004</td> </tr> <tr> <td>金額</td> <td></td> <td>備考</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="4" style="text-align: center;">参考書6</td> <td>書名</td> <td colspan="3">地質学III:地球史の探求</td> </tr> <tr> <td>ISBN</td> <td>4-00-006242-8</td> <td>著者名</td> <td>平 朝彦</td> </tr> <tr> <td>出版社</td> <td>岩波書店</td> <td>出版年</td> <td>2007</td> </tr> <tr> <td>金額</td> <td></td> <td>備考</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="4" style="text-align: center;">参考書7</td> <td>書名</td> <td colspan="3">気候変動を理学する</td> </tr> <tr> <td>ISBN</td> <td>978-4-622-07749-7</td> <td>著者名</td> <td>多田隆治</td> </tr> <tr> <td>出版社</td> <td>みすず書房</td> <td>出版年</td> <td>2013</td> </tr> <tr> <td>金額</td> <td></td> <td>備考</td> <td></td> </tr> </table>				参考書1	書名	海洋地球化学			ISBN	978-4-06-155237-1	著者名	蒲生俊敬編	出版社	講談社サイエンティフィック	出版年	2014	金額		備考		参考書2	書名	地球表層環境の進化-先カンブリア時代から近未来まで			ISBN	978-4-13-062720-7	著者名	川幡穂高	出版社	東大出版会	出版年	2008	金額		備考		参考書3	書名	海洋地球環境学—生物地球化学循環から読む			ISBN	978-4-13-060752-0	著者名	川幡穂高	出版社	東大出版会	出版年	2011	金額		備考		参考書4	書名	地質学I:地球のダイナミックス			ISBN	4-00-006240-9	著者名	平 朝彦	出版社	岩波書店	出版年	2001	金額		備考		参考書5	書名	地質学II:地層の解読			ISBN	4-00-006241-7	著者名	平 朝彦	出版社	岩波書店	出版年	2004	金額		備考		参考書6	書名	地質学III:地球史の探求			ISBN	4-00-006242-8	著者名	平 朝彦	出版社	岩波書店	出版年	2007	金額		備考		参考書7	書名	気候変動を理学する			ISBN	978-4-622-07749-7	著者名	多田隆治	出版社	みすず書房	出版年	2013	金額		備考		<input checked="" type="checkbox"/>
参考書1	書名	海洋地球化学																																																																																																																										
	ISBN	978-4-06-155237-1	著者名	蒲生俊敬編																																																																																																																								
	出版社	講談社サイエンティフィック	出版年	2014																																																																																																																								
	金額		備考																																																																																																																									
参考書2	書名	地球表層環境の進化-先カンブリア時代から近未来まで																																																																																																																										
	ISBN	978-4-13-062720-7	著者名	川幡穂高																																																																																																																								
	出版社	東大出版会	出版年	2008																																																																																																																								
	金額		備考																																																																																																																									
参考書3	書名	海洋地球環境学—生物地球化学循環から読む																																																																																																																										
	ISBN	978-4-13-060752-0	著者名	川幡穂高																																																																																																																								
	出版社	東大出版会	出版年	2011																																																																																																																								
	金額		備考																																																																																																																									
参考書4	書名	地質学I:地球のダイナミックス																																																																																																																										
	ISBN	4-00-006240-9	著者名	平 朝彦																																																																																																																								
	出版社	岩波書店	出版年	2001																																																																																																																								
	金額		備考																																																																																																																									
参考書5	書名	地質学II:地層の解読																																																																																																																										
	ISBN	4-00-006241-7	著者名	平 朝彦																																																																																																																								
	出版社	岩波書店	出版年	2004																																																																																																																								
	金額		備考																																																																																																																									
参考書6	書名	地質学III:地球史の探求																																																																																																																										
	ISBN	4-00-006242-8	著者名	平 朝彦																																																																																																																								
	出版社	岩波書店	出版年	2007																																																																																																																								
	金額		備考																																																																																																																									
参考書7	書名	気候変動を理学する																																																																																																																										
	ISBN	978-4-622-07749-7	著者名	多田隆治																																																																																																																								
	出版社	みすず書房	出版年	2013																																																																																																																								
	金額		備考																																																																																																																									

34. Webテキスト (URL・説明)	大学連携e-Learning教育支援センター四国(知プラ)ホームページ http://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/		<input checked="" type="checkbox"/>
35. パソコン必要度	必要	36. 資格等／本科目受講が必要となる資格等 ／資格取得該当科目 なし	<input checked="" type="checkbox"/>
37. 教員相互参観授業公開日程			<input type="checkbox"/>
38. オフィスアワー	自大学 学生向け	メール(murayama@kochi-u.ac.jp)にて、要予約。授業の前後にも受け付けます	<input checked="" type="checkbox"/>
	連携大学 学生向け	moodle(e-learningシステム)上の専用掲示板「お知らせ」を利用し連絡すること	<input checked="" type="checkbox"/>
39. 連絡先／学生相談場所／学生開示用メール	自大学 学生向け	moodle(e-learningシステム)上の専用掲示板「お知らせ」を利用すること	<input checked="" type="checkbox"/>
	連携大学 学生向け	moodle(e-learningシステム)上の専用掲示板「お知らせ」を利用すること	<input checked="" type="checkbox"/>
40. その他／備考	高知大学生:理学部専門科目「海洋地質学」は二重履修になります		<input checked="" type="checkbox"/>

## シラバス情報収集フォーマット(2016年6月改訂)

## 【記入要領】

1. 下記の**緑色部分**をご記入ください。(記入内容が無い場合は空白とせず無しと記入)
2. **グレー部分**は大学ごとに異なるため必要に応じて個別に対応をお願いする項目です。
3. **白色部分**はあらかじめ想定内容を記入しています。
4. 教員から学生へ必ず伝えてほしい内容についてはチェックボックスへチェック☑を入れて下さい。(各大学のシラバスに必ず記載されません)

1. 開講年度	2018		2. 開講学期	第2学期	
3. 開講学部・学科等 ／区分等	共通教育		4. 授業形態／授業種別	eラーニング	
5. 授業科目区分／科目分野／科目区分／区分等	教養科目キャリア形成支援分野		6. DPコード／分野コード／科目ナンバリング		
7. 科目名／科目英文名／英文併記	(日本語名) 学びの統合入門 (英文名) Learning in University				
8. 副題(日本語・英語)	(日本語名) 将来の活動につながる情報・知識の蓄え方を身につけよう! (英文名) Let's develop your own learning style!				
9. 担当教員名(教員ローマ字表記)	(日本語) 立川 明 (ローマ字) TATSUKAWA Akira				
10. 時間割コード／申請コード／授業コード			11. 昼夜		
12. 単位数	2		13. 選必修区分／単位区分	なし	
14. 対象学生	全学部全学科		15. 対象年次／区分等 ／標準履修年次	1年生	
16. 曜日・時限	なし		17. 講義室		
18. 履修推奨科目	自大学 学生向け	なし	19. 関連科目(関連科目コード番号)	自大学 学生向け	なし
	連携大学 学生向け	なし		連携大学 学生向け	なし
20. 授業のキーワード ／英文キーワード (3 つ以上5つ以下)	情報の管理, 知識の管理, eラーニング Information Management, Knowledge Management, e-Learning				
21. 授業概要	大学での学びを意味のあるものにしていく手助けをする科目です。講義などのノートの取り方、取り組み課題に関連する情報収集の仕方、集めた情報の管理の仕方、そして、収集・管理している情報などからレポートなどのアウトプットにつなげる具体的な方法を学びます。  この科目はeラーニングですが、ビデオなどの視聴はほとんどありません。タスクの提出やLMS上のディスカッションなどの自立的に取り組む活動で構成されています。  この授業では、提示されるストーリーの軸に沿って、各回で示されるさまざまな出来事に取り組むという方法をとっています。				☑
22. 授業の目的及び 主旨／授業科目の 主題	1) 自分自身に適した情報インプット・管理の方法を身に付けることができる 2) 自分で管理している情報等をレポート作成などで実際に使うことができる				☑

<p>23. 授業の到達目標 ／学修課題</p>	<p>1) 講義ノートの取り方をいくつか試し、自分自身に適した方法を見出すことができる。</p> <p>2) 取り組んでいる課題(レポートなど)に関連する情報収集の仕方・情報管理の仕方をいくつか試し、自分自身に適した方法を見出すことができる。</p> <p>3) 自分で収集・管理している情報に基づいてレポートが作成できる。</p> <p>4) 作成したレポートなどのどの部分にどのような情報を用いたのかを説明できる。</p>	<input checked="" type="checkbox"/>
<p>24. ディプロマ・ポリシー (卒業時の到達目標・共通教育の理念・教育方針に関わる項目)</p>		
<p>25. カリキュラムマップ (授業科目の主題・授業科目の到達目標とカリキュラムマップ)</p>		
<p>26. 授業スケジュール ／授業計画並びに授業及び学習の方法</p>	<p>第1回 【ブロック1:これまでの学びの方法の振り返り】 大学における学びとは？ (これまでの学び方を振り返ります。)</p> <p>第2回 【ブロック2:講義からのインプット】 自分に適したノートの取り方はどういうもの？(1) (コーネルメソッドによるノートの取り方)</p> <p>第3回 【ブロック2:講義からのインプット】 自分に適したノートの取り方はどういうもの？(2) (見開き記入ノートによるノートの取り方)</p> <p>第4回 【ブロック2:講義からのインプット】 自分に適したノートの取り方はどういうもの？(3) (三本線ノートによるノートの取り方)</p> <p>第5回 【ブロック2:講義からのインプット】 自分なりのノートの取り方を探る</p> <p>第6回 【ブロック3:講義以外からのインプット】 一元管理？二元管理？ーデジタルツールの使い方</p> <p>第7回 【ブロック3:講義以外からのインプット】 インターネットを通じて学術情報を得るためには</p> <p>第8回 【ブロック3:講義以外からのインプット】 収集した学術情報を次に役立てるために</p> <p>第9回 【ブロック3:講義以外からのインプット】 さまざまな情報をインターネットを通じて得るためには</p> <p>第10回 【ブロック3:講義以外からのインプット】 収集したさまざまな情報を次に役立てるために</p> <p>第11回 【ブロック3:講義以外からのインプット】 自分なりの収集情報管理方法を探る</p> <p>第12回 【ブロック4:アウトプットの準備とアウトプット】 アイデアを広げるツール</p>	<input checked="" type="checkbox"/>

	<p>第13回 【ブロック4:アウトプットの準備とアウトプット】 アイデアを絞り込むツール</p> <p>第14回 【ブロック4:アウトプットの準備とアウトプット】 アウトライン作成ツール</p> <p>第15回 【ブロック4:アウトプットの準備とアウトプット】 作成したレポートについてのレポート！</p> <p>第16回 【ブロック5:まとめ】 ストーリーから離れ、自分自身の学びの行動について振り返る</p>																		
27. 授業時間外学習にかかわる情報	講義受講型ではないため、授業時間内・授業時間外という枠はありません。	<input checked="" type="checkbox"/>																	
28. 成績評価の方法と基準	<p>【ブロック1(第1回)】 (設けられたタスクは成績評価の対象外ですが、必須の活動です。)</p> <p>【ブロック2(第2回～第5回)】 課題1: 自分なりのノートの取り方によって取ったノートの報告(30点) (各回に設けられたタスクは成績評価の対象外ですが、必須の活動です。)</p> <p>【ブロック3(第6回～第11回)】 課題2: 自分なりの情報管理方法で集めた情報一覧の報告(30点) (各回に設けられたタスクは成績評価の対象外ですが、必須の活動です。)</p> <p>【ブロック4(第12回～第15回)】 課題3: 作成したレポートのどこにどのような情報を使用したかの報告(40点) (各回に設けられたタスクは成績評価の対象外ですが、必須の活動です。)</p> <p>【ブロック5(まとめ回)】 (設けられたタスクは成績評価の対象外ですが、必須の活動です。)</p> <p>合計 100点</p>	<input checked="" type="checkbox"/>																	
29. 再試験の有無	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 30%;">自大学学生向け</td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td>連携大学学生向け</td> <td>なし</td> </tr> </table>	自大学学生向け	なし	連携大学学生向け	なし	<input checked="" type="checkbox"/>													
自大学学生向け	なし																		
連携大学学生向け	なし																		
30. 受講の条件／先行科目／受講人数制限	<p>受講人数制限:あり</p> <p>香川大学5名・徳島大学5名・鳴門教育大学5名・高知大学5名・愛媛大学5名</p>	<input checked="" type="checkbox"/>																	
31. 受講のルール履修上の注意・担当教員からのメッセージ／履修希望学生に求めるもの	<p>・レポート課題を課す別の科目を1つ以上並行して履修している必要があります(この科目は、別の科目で課せられたレポートをよりよく書くためのスキルを学ぶ科目だからです)。</p> <p>・eラーニングです。パソコン(やスマホ)からインターネットを介して、学習コンテンツにアクセスする必要があります。そのため、パソコン操作は必須です。また、大学から割り当てられたメールアドレスでのメール送受信も必要となります。</p>	<input checked="" type="checkbox"/>																	
32. 教科書(購入の必要のある図書)	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td rowspan="4" style="width: 15%;">教科書1</td> <td style="width: 15%;">書名</td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td>ISBN</td> <td></td> <td style="width: 15%;">著者名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>出版社</td> <td></td> <td>出版年</td> <td></td> </tr> <tr> <td>金額</td> <td></td> <td>備考</td> <td></td> </tr> </table>	教科書1	書名				ISBN		著者名		出版社		出版年		金額		備考		<input type="checkbox"/>
教科書1	書名																		
	ISBN			著者名															
	出版社			出版年															
	金額		備考																

33. 教科書・参考書に関する補足情報	参考書1	書名				<input type="checkbox"/>
		ISBN		著者名		
		出版社		出版年		
		金額		備考		
	参考書2	書名				
		ISBN		著者名		
		出版社		出版年		
		金額		備考		
	参考書3	書名				
		ISBN		著者名		
		出版社		出版年		
		金額		備考		
34. Webテキスト (URL・説明)	大学連携e-Learning教育支援センター四国(知プラ)ホームページ <a href="http://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/">http://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/</a>				<input checked="" type="checkbox"/>	
35. パソコン必要度	必要	36. 資格等／本科目受講が必要となる資格等 ／資格取得該当科目	なし		<input checked="" type="checkbox"/>	
37. 教員相互参観授業公開日程					<input type="checkbox"/>	
38. オフィスアワー	自大学 学生向け	なし			<input type="checkbox"/>	
	連携大学 学生向け	(Skype等webで対応できる場合のみ) なし			<input type="checkbox"/>	
39. 連絡先／学生相談場所／学生開示用メール	自大学 学生向け	eラーニングシステム(LMS: Learning Management System)上の専用掲示板(フォーラム)でいつでも受け付けています。			<input checked="" type="checkbox"/>	
	連携大学 学生向け	eラーニングシステム(LMS: Learning Management System)上の専用掲示板(フォーラム)でいつでも受け付けています。			<input checked="" type="checkbox"/>	
40. その他／備考	なし				<input type="checkbox"/>	

## シラバス情報収集フォーマット(2016年6月改訂)

## 【記入要領】

1. 下記の**緑色部分**をご記入ください。(記入内容が無い場合は空白とせず無しと記入)
2. **グレー部分**は大学ごとに異なるため必要に応じて個別に対応をお願いする項目です。
3. **白色部分**はあらかじめ想定内容を記入しています。
4. 教員から学生へ必ず伝えてほしい内容についてはチェックボックスへチェック☑を入れて下さい。(各大学のシラバスに必ず記載されま  
す)

1. 開講年度	2018		2. 開講学期	第1学期		
3. 開講学部・学科等 ／区分等	共通教育		4. 授業形態／授業種 別	eラーニング		
5. 授業科目区分／科 目分野／科目区分／ 区分等	教養科目キャリア形成支援分野		6. DPコード／分野コー ド／科目ナンバリング			
7. 科目名／科目英文 名／英文併記	(日本語名) 大学生活入門 (英文名) Guide for New face in University					
8. 副題(日本語・英 語)	(日本語名) 大学期間中にこれならできそうだと思う目標・計画を立てよう! (英文名) Let's start planning your university life!					
9. 担当教員名(教員 ローマ字表記)	(日本語) 立川 明 (ローマ字) TATSUKAWA Akira					
10. 時間割コード／申 請コード／授業コード			11. 昼夜			
12. 単位数	2		13. 選必区分／単位区 分	なし		
14. 対象学生	全学部全学科		15. 対象年次／区分等 ／標準履修年次	1年生		
16. 曜日・時限	なし		17. 講義室			
18. 履修推奨科目	自大学 学生向け	なし	19. 関連科目(関連科 目コード番号)	自大学 学生向け	なし	
	連携大学 学生向け	なし		連携大学 学生向け	なし	
20. 授業のキーワード ／英文キーワード (3 つ以上5つ以下)	目的・目標・計画、大学生活、キャリア、eラーニング、ストーリー中心型カリキュラム(SCC) Make your Plan, University Life, Career, e-Learning, Story-centered curriculum					
21. 授業概要	<p>大学生生活を有意義に過ごすための手助けをする科目です。大学卒業後にどうなっていたいのか、それに向けて何をすればよいのかを具体的に考えていくための活動をいくつも用意しています。</p> <p>この科目はeラーニングですが、ビデオなどの視聴はほとんどありません。実際に行くことは次の通りです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指示に従って実際にどこかへ出向き、その証拠としてスマホ等を使い現地で撮影した自撮り写真などを提出</li> <li>・出向いた先で知ったこと、学んだことについてのレポート(感想や意見など)を提出</li> <li>・LMS上でディスカッション など</li> </ul> <p>またこの授業の特徴は、提示されるストーリーの軸に沿って、各回で示されるさまざまな出来事に取り組むという方法をとっていることです。このような学習方法をストーリー中心型カリキュラム(SCC)と呼んで</p>					☑

	います。	
22. 授業の目的及び主旨／授業科目の主題	<p>1) 大学卒業後の自分の姿を思い描き、その実現に向けて、大学期間中にこれならできそうだと思う行動目標を1つ以上立て、それらを含む学期単位・年単位での計画を作成することができる。</p> <p>2) 自らが立てた行動目標・計画を実行するために必要となる(かもしれない)大学内外のリソース(授業そのものや図書館等の設備、学外の施設など)に親しむことができる。</p>	<input checked="" type="checkbox"/>
23. 授業の到達目標／学修課題	<p>1-1) 大学卒業後の自分の姿を思い描き、その実現に向けて、大学期間中にこれならできそうだと思う行動目標を1つ以上立てることができる。</p> <p>1-2) 自ら立てた行動目標実現のために、学期単位・年単位での計画を作成することができる。</p> <p>2) 自らが立てた行動目標・計画を実行するために必要な大学内外のリソースに触れ、それらの役割・自分にとっての意味について説明することができる。</p>	<input checked="" type="checkbox"/>
24. ディプロマ・ポリシー(卒業時の到達目標・共通教育の理念・教育方針に関わる項目)		
25. カリキュラムマップ(授業科目の主題・授業科目の到達目標とカリキュラムマップ)		
26. 授業スケジュール／授業計画並びに授業及び学習の方法	<p>第1回 【ブロック1: 大学生生活の始まり】 入学おめでとう！ (あなたは架空の大学 Unlearn University に入学しました！)</p> <p>第2回 【ブロック1: 大学生生活の始まり】 新しい環境の探索 (主に大学内の施設・設備を探索します。)</p> <p>第3回 【ブロック1: 大学生生活の始まり】 先輩の話 (社会人となった先輩の話聞く機会があります。)</p> <p>第4回 【ブロック2: 1年生のスタート】 正課外活動に取り組みたい (授業以外の活動に取り組むことを勧められました。)</p> <p>第5回 【ブロック2: 1年生のスタート】 ディスカッションのできる場所はどこ？ (授業時間外にグループワークをする授業があり、ディスカッションをする場所を探さなければなりません。)</p> <p>第6回 【ブロック2: 1年生のスタート】 友人の訪問(1) (長期休みになり、友人が訪ねてきました。県内を案内したいと思います。)</p> <p>第7回 【ブロック2: 1年生のスタート】</p>	<input checked="" type="checkbox"/>

	<p>ノートをコピーさせて欲しいという依頼 (授業を休んだ友だちが、突然、ノートを見せてくれと言ってきました。)</p> <p>第8回【ブロック3:2年生から4年生まで】 インターン活動へのアクセス (学生時代にインターンを行うことを強く勧められました。)</p> <p>第9回【ブロック3:2年生から4年生まで】 図書館からのメール (図書館で本を借りました。)</p> <p>第10回【ブロック3:2年生から4年生まで】 友人の訪問(2) (別の友人が訪ねてくることになりました。)</p> <p>第11回【ブロック3:2年生から4年生まで】 研究室を決めない (そろそろ研究室を決める必要がでてきました。)</p> <p>第12回【ブロック3:2年生から4年生まで】 就職支援室で情報収集 (就職支援室でどんな支援が受けられるのか、探してみようと思います。)</p> <p>第13回【ブロック4:大学生活の終わりに向けて】 卒論の準備(1) (図書館やインターネットなどで情報検索・情報収集をします。)</p> <p>第14回【ブロック4:大学生活の終わりに向けて】 卒論の準備(2) (図書館やインターネットなどで情報検索・情報収集をします。)</p> <p>第15回【ブロック4:大学生活の終わりに向けて】 後輩へのアドバイス (卒業にあたり、後輩へのアドバイスをまとめます。)</p> <p>第16回【ブロック5:まとめ】 ストーリーから離れ、自分自身の目標・計画を立てる</p>		
27. 授業時間外学習にかかわる情報	講義受講型ではないため、授業時間内・授業時間外という枠はありません。	<input checked="" type="checkbox"/>	
28. 成績評価の方法と基準	<p>ブロック1(第1回～第3回)】 課題1:目標と計画(最初)10点 (各回に設けられたタスクは成績評価対象外ですが、必須の活動です。)</p> <p>【ブロック2～ブロック4(第4回～第15回)】 課題2:さまざまな活動(タスク)への取り組み 50点 (各回に設けられた3つ程度のタスクは必須の活動であり、成績評価の対象です。)</p> <p>【ブロック5(まとめ回)】 課題3:疑似体験を踏まえた目標と計画(最後)40点 (各回に設けられたタスクは成績評価対象外ですが、必須の活動です。)</p> <p>合計 100点</p>	<input checked="" type="checkbox"/>	
29. 再試験の有無	自大学学生向け	なし	<input checked="" type="checkbox"/>
	連携大学学生向け	なし	

30. 受講の条件／先行科目／受講人数制限	受講人数制限:あり 香川大学5名・徳島大学5名・鳴門教育大学5名・高知大学5名・愛媛大学5名			☑																																																	
31. 受講のルール履修上の注意・担当教員からのメッセージ／履修希望学生に求めるもの	eラーニングです。パソコン(やスマホ)からインターネットを介して、学習コンテンツにアクセスする必要があります。そのため、パソコン操作は必須です。また、大学から割り当てられたメールアドレスでのメール送受信も必要となります。さらに、取り組みの中にはスマホ(デジカメ)等での”自撮り”写真の提出などがあります。			☑																																																	
32. 教科書(購入の必要のある図書)	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="4" style="text-align: center; vertical-align: middle;">教科書1</td> <td style="text-align: center;">書名</td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">ISBN</td> <td></td> <td style="text-align: center;">著者名</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">出版社</td> <td></td> <td style="text-align: center;">出版年</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">金額</td> <td></td> <td style="text-align: center;">備考</td> <td></td> </tr> </table>	教科書1	書名				ISBN		著者名		出版社		出版年		金額		備考		☐																																		
教科書1	書名																																																				
	ISBN			著者名																																																	
	出版社			出版年																																																	
	金額		備考																																																		
33. 教科書・参考書に関する補足情報	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="4" style="text-align: center; vertical-align: middle;">参考書1</td> <td style="text-align: center;">書名</td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">ISBN</td> <td></td> <td style="text-align: center;">著者名</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">出版社</td> <td></td> <td style="text-align: center;">出版年</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">金額</td> <td></td> <td style="text-align: center;">備考</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="4" style="text-align: center; vertical-align: middle;">参考書2</td> <td style="text-align: center;">書名</td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">ISBN</td> <td></td> <td style="text-align: center;">著者名</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">出版社</td> <td></td> <td style="text-align: center;">出版年</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">金額</td> <td></td> <td style="text-align: center;">備考</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="4" style="text-align: center; vertical-align: middle;">参考書3</td> <td style="text-align: center;">書名</td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">ISBN</td> <td></td> <td style="text-align: center;">著者名</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">出版社</td> <td></td> <td style="text-align: center;">出版年</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">金額</td> <td></td> <td style="text-align: center;">備考</td> <td></td> </tr> </table>	参考書1	書名				ISBN		著者名		出版社		出版年		金額		備考		参考書2	書名				ISBN		著者名		出版社		出版年		金額		備考		参考書3	書名				ISBN		著者名		出版社		出版年		金額		備考		☐
参考書1	書名																																																				
	ISBN			著者名																																																	
	出版社			出版年																																																	
	金額		備考																																																		
参考書2	書名																																																				
	ISBN		著者名																																																		
	出版社		出版年																																																		
	金額		備考																																																		
参考書3	書名																																																				
	ISBN		著者名																																																		
	出版社		出版年																																																		
	金額		備考																																																		
34. Webテキスト(URL・説明)	大学連携e-Learning教育支援センター四国(知プラ)ホームページ <a href="http://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/">http://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/</a>			☑																																																	
35. パソコン必要度	必要	36. 資格等／本科目受講が必要となる資格等 ／資格取得該当科目	なし	☑																																																	
37. 教員相互参観授業公開日程				☐																																																	
38. オフィスアワー	自大学 学生向け	なし		☐																																																	
	連携大学 学生向け	(Skype等webで対応できる場合のみ) なし		☐																																																	
39. 連絡先／学生相談場所／学生開示用メール	自大学 学生向け	eラーニングシステム(LMS: Learning Management System)上の専用掲示板(フォーラム)でいつでも受け付けています。		☑																																																	

	連携大学 学生向け	eラーニングシステム(LMS: Learning Management System)上の専用掲示板(フォーラム)で いつでも受け付けています。	<input checked="" type="checkbox"/>
40. その他／備考	なし		<input type="checkbox"/>

## シラバス情報収集フォーマット(2016年6月改訂)

## 【記入要領】

1. 下記の**緑色部分**をご記入ください。(記入内容が無い場合は空白とせず無しと記入)
2. **グレー部分**は大学ごとに異なるため必要に応じて個別に対応をお願いする項目です。
3. **白色部分**はあらかじめ想定内容を記入しています。
4. 教員から学生へ必ず伝えてほしい内容についてはチェックボックスへチェックを入れて下さい。(各大学のシラバスに必ず記載されま  
す)

1. 開講年度	2018		2. 開講学期	第1学期	
3. 開講学部・学科等 ／区分等	共通教育		4. 授業形態／授業種 別	eラーニング	
5. 授業科目区分／科 目分野／科目区分／ 区分等	教養科目自然分野		6. DPコード／分野コー ド／科目ナンバリング		
7. 科目名／科目英文 名／英文併記	(日本語名)有機化学概論 初級 (英文名) Outline of Organic Chemistry for Beginner's Class				
8. 副題(日本語・英 語)	(日本語名) e-Learningで学ぶ有機化学入門 (英文名) Introduction of Organic Chemistry				
9. 担当教員名(教員 ローマ字表記)	(日本語)立川 明 (ローマ字) TATSUKAWA Akira				
10. 時間割コード／申 請コード／授業コード			11. 昼夜		
12. 単位数	2		13. 選必区分／単位区 分	なし	
14. 対象学生	全学部全学科		15. 対象年次／区分等 ／標準履修年次	1年生	
16. 曜日・時限	なし		17. 講義室		
18. 履修推奨科目	自大学 学生向け	なし	19. 関連科目(関連科 目コード番号)	自大学 学生向け	なし
	連携大学 学生向け	なし		連携大学 学生向け	なし
20. 授業のキーワード ／英文キーワード (3 つ以上5つ以下)	化学, 有機化学, 生化学 Chemistry, Organic Chemistry, Bio Chemistry				
21. 授業概要	<p>有機化学の教科書を毎回1章, 教科書にそって化合物の名前, 分子の構造, 反応, 酸と塩基, 官能基, 生化学物質と医薬品の順で進めます。まず自分で教科書をよく読んでください。その上で説明文をノートに書いてみましょう。説明文の中から, 具体的で重要な事柄を各パラグラフから一つ選び, レポートにします。一つの事柄を一文で具体的かつ簡潔に表現してください。異なるパラグラフから1文ずつ特に重要なものを選んで3つ(以上)をレポートとして提出します。</p> <p>レポートを提出したら, 動画教材を見てください。教材は, 教科書の内容に関する補足とさらに専門的な内容に関する解説が含まれます。</p> <p>最後に章末問題に解答します。</p> <p>質問がある場合はフォーラムに書き込んでください。フォーラムへの書き込みに対して, 積極的にコメントを入れてください。毎回積極的なコメントを書き込む人には参加点を加点します。</p>				

22. 授業の目的及び主旨／授業科目の主題	<p>1.みのまわりの現象について一般論や間違った情報に惑わされることなく、自ら正しい判断ができるために必要な化学の知識を身につける。</p> <p>2.論理的思考力, 説明力, 発問力を身につける。</p> <p>3.有機化合物の構造が理解できる。</p>	☑
23. 授業の到達目標／学修課題	<p>教科書で扱われている有機化合物の名前が書ける。</p> <p>教科書で扱われている有機化合物の反応が正しく書き表せる。</p> <p>教科書で扱われている有機化合物の性質が説明できる。</p> <p>教科書で扱われている有機化合物の構造が正しく書き表せる。</p>	☑
24. ディプロマ・ポリシー(卒業時の到達目標・共通教育の理念・教育方針に関わる項目)		
25. カリキュラムマップ(授業科目の主題・授業科目の到達目標とカリキュラムマップ)		
26. 授業スケジュール／授業計画並びに授業及び学習の方法	<p>第1週 受講の仕方(ガイダンス・確認テスト含む)</p> <p>第2週 「有機化学をなぜ学ぶのか」</p> <p>第3週 「いろいろな有機化合物とその名前」</p> <p>第4週 「有機化合物(分子)のなりたち」</p> <p>第5週 「有機化合物のなりたちと基本骨格」</p> <p>第6週 「有機化合物の立体構造」</p> <p>第7週 「化学反応」</p> <p>第8週 「酸と塩基」</p> <p>第9週 「アルコールおよびエーテル」</p> <p>第10週 「アルデヒドおよびケトンの反応」</p> <p>第11週 「カルボン酸とその誘導体」</p> <p>第12週 「アミン」</p> <p>第13週 「タンパク質と糖質」</p> <p>第14週 「脂質と核酸」</p> <p>第15週 「医薬品の化学構造」</p> <p>第16週 期末試験</p> <p><b>【授業及び学習の方法】</b></p> <p>全回オンデマンド型(非同期型遠隔講義)で行われます。教科書を使ってよく予習をし、レポートを提出した後、インターネットで配信されるeラーニング教材を大学や自宅などで視聴し、指定された期限までに章末試験に解答する順序で学習する。</p> <p>詳細については、コースのトップに記載している「受講の仕方」を参照すること。</p>	☑
27. 授業時間外学習にかかわる情報	<p><b>【レポートの書き方】</b></p> <p>・準備として、教科書を読み、パラグラフごとに説明文をノートに書いてみましょう。ノートに書いた中から、3つを選んでレポートとして提出してもらいます。ただし、レポートには異なるパラグラフから1文ずつ</p>	☑

	<p>を選ぶこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・説明文は1文にひとつの事柄を、具体的に書くこと。二つ以上の事柄を1文で書いてある場合や、2つ以上の文章で説明している場合、内容に間違いがある場合、文法的な間違いがある場合は再提出を求めます。また、主語と述語がそろっていない場合も再提出とします。</li> <li>*章末問題の正解の選択肢を書きつもりで書いて下さい。</li> <li>・提出されたレポートにはコメントを返すので、コメントを見て参考とすること。ただし問題ない場合には「OK」、よく書かれている場合には「Good」とだけ返します。再提出が必要な場合には「再提出」と返します。</li> <li>・レポートの最初の行には、タイトルを付けること。表紙は不要、タイトルはレポートの中身を表すものを自分で考えて付けること。2行目には自分の氏名、所属、学年を書くこと。1行空け、4行目から要約文を三つ書くこと。</li> <li>*毎回要約文を4つ以上書いた場合は加点とします。</li> <li>・レポートのファイル名は、学籍番号v章番号とすること。(例:b143c021v4.docx)</li> <li>・レポートはWordまたはPagesで作成し、圧縮せずに提出すること。</li> <li>・レポートはすべて提出すること。再提出が必要なのにしていなかった場合、提出していなかった場合は成績評価を行わない場合があります。</li> </ul>																		
28. 成績評価の方法と基準	<p>毎回のレポート 20%</p> <p>毎回のレポート追加点 10%</p> <p>毎回4つ以上の説明文を作成し、Goodの評価を得ていること。</p> <p>章末テスト 50%</p> <p>十分な予習時間をとり、間違えずに短時間で全問正解すること。誤答するたびに減点されます。</p> <p>期末試験 20%</p> <p>章末問題と同様の問題です。早く正確に解答すること。誤答するたびに減点されます。</p>	☑																	
29. 再試験の有無	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 30%;">自大学学生向け</td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td>連携大学学生向け</td> <td>なし</td> </tr> </table>	自大学学生向け	なし	連携大学学生向け	なし	☑													
自大学学生向け	なし																		
連携大学学生向け	なし																		
30. 受講の条件／先行科目／受講人数制限	<p>受講人数制限:あり</p> <p>香川大学20名・徳島大学20名・鳴門教育大学20名・高知大学20名・愛媛大学20名</p>	☑																	
31. 受講のルール履修上の注意・担当教員からのメッセージ／履修希望学生に求めるもの	<p>各週の章末問題に、解答期限を設定しています。テストを受ける前にレポートを提出するため、レポート締切も同時期と考えて下さい。全てのレポートを提出し、試験に解答すること。未提出のレポートや未回答のテストがある場合、0点と評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 締切に遅れても、必ずレポートを提出し、試験に解答してください。</li> <li>* 試験は2回解答可能です。2回解答した場合は平均点を成績とします。</li> <li>* 締切後にレポートをチェックし、コメントを返します。コメントを確認してください。レポートは、サイエンスコミュニケーションの練習のために書くものです。そのための評価基準を設定していますので、「受講の仕方」をよく読んで下さい。長い長いレポートを出す人がいますが、その場合は再提出にします。</li> </ul>	☑																	
32. 教科書(購入の必要のある図書)	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td rowspan="4" style="width: 15%;">教科書1</td> <td style="width: 15%;">書名</td> <td colspan="3">はじめて学ぶ有機化学</td> </tr> <tr> <td>ISBN</td> <td>9784759818079</td> <td>著者名</td> <td>高橋秀依 他</td> </tr> <tr> <td>出版社</td> <td>化学同人</td> <td>出版年</td> <td>2015</td> </tr> <tr> <td>金額</td> <td>2200</td> <td>備考</td> <td></td> </tr> </table>	教科書1	書名	はじめて学ぶ有機化学			ISBN	9784759818079	著者名	高橋秀依 他	出版社	化学同人	出版年	2015	金額	2200	備考		☑
教科書1	書名		はじめて学ぶ有機化学																
	ISBN		9784759818079	著者名	高橋秀依 他														
	出版社		化学同人	出版年	2015														
	金額	2200	備考																

33. 教科書・参考書に関する補足情報	参考書1	書名				<input type="checkbox"/>
		ISBN		著者名		
		出版社		出版年		
		金額		備考		
	参考書2	書名				
		ISBN		著者名		
		出版社		出版年		
		金額		備考		
	参考書3	書名				
		ISBN		著者名		
		出版社		出版年		
		金額		備考		
34. Webテキスト (URL・説明)	大学連携e-Learning教育支援センター四国(知プラ)ホームページ <a href="http://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/">http://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/</a>				<input checked="" type="checkbox"/>	
35. パソコン必要度	必要	36. 資格等／本科目受講が必要となる資格等 ／資格取得該当科目	なし		<input type="checkbox"/>	
37. 教員相互参観授業公開日程					<input type="checkbox"/>	
38. オフィスアワー	自大学 学生向け	なし			<input type="checkbox"/>	
	連携大学 学生向け	(Skype等webで対応できる場合のみ) なし			<input type="checkbox"/>	
39. 連絡先／学生相談場所／学生開示用メール	自大学 学生向け	Moodle内のコミュニケーションツール(フォーラム)を利用すること。			<input checked="" type="checkbox"/>	
	連携大学 学生向け	Moodle内のコミュニケーションツール(フォーラム)を利用すること。			<input checked="" type="checkbox"/>	
40. その他／備考	平成29年度以前に「有機化学概論」を単位修得している場合は履修できません。				<input checked="" type="checkbox"/>	

## シラバス情報収集フォーマット(2016年6月改訂)

## 【記入要領】

1. 下記の**緑色部分**をご記入ください。(記入内容が無い場合は空白とせず無しと記入)
2. **グレー部分**は大学ごとに異なるため必要に応じて個別に対応をお願いする項目です。
3. **白色部分**はあらかじめ想定内容を記入しています。
4. 教員から学生へ必ず伝えてほしい内容についてはチェックボックスへチェック☑を入れて下さい。(各大学のシラバスに必ず記載されま  
す)

1. 開講年度	2018		2. 開講学期	第2学期	
3. 開講学部・学科等 ／区分等	共通教育		4. 授業形態／授業種 別	eラーニング	
5. 授業科目区分／科 目分野／科目区分／ 区分等	教養科目自然分野		6. DPコード／分野コー ド／科目ナンバリング		
7. 科目名／科目英文 名／英文併記	(日本語名)有機化学概論 中級 (英文名)Outline of Organic Chemistry for Middle Class				
8. 副題(日本語・英 語)	(日本語名)e-Learning で学ぶ有機化学 (英文名) Organic Chemistry in e-Learning				
9. 担当教員名(教員 ローマ字表記)	(日本語)立川 明 (ローマ字) TATSUKAWA Akira				
10. 時間割コード／申 請コード／授業コード			11. 昼夜		
12. 単位数	2		13. 選必区分／単位区 分	なし	
14. 対象学生	全学全学科		15. 対象年次／区分等 ／標準履修年次	1年生	
16. 曜日・時限	なし		17. 講義室		
18. 履修推奨科目	自大学 学生向け	なし	19. 関連科目(関連科 目コード番号)	自大学 学生向け	なし
	連携大学 学生向け	なし		連携大学 学生向け	なし
20. 授業のキーワード ／英文キーワード (3 つ以上5つ以下)	有機化学, 分子構造, 立体化学, 化学反応 Organic Chemistry, Conformation, Stereo Chemistry, Chemical Reaction				
21. 授業概要	<p>有機化学の教科書を毎回1章, 教科書にそって原子の構造, 分子の構造, 化合物の名前, 有機化合物の反応, 官能基の順で進めます。まず自分で教科書をよく読んでください。その上で説明文をノートに書いてみましょう。説明文の中から, 具体的で重要な事柄を各パラグラフから一つ選び, レポートにします。一つの事柄を一文で具体的かつ簡潔に表現してください。異なるパラグラフから1文ずつ特に重要なものを選んで3つ(以上)をレポートとして提出します。</p> <p>レポートを提出したら, 章末問題に解答します。</p> <p>質問がある場合はフォーラムに書き込んでください。フォーラムへの書き込みに対して, 積極的にコメントを入れてください。毎回積極的なコメントを書き込む人には参加点を加点します。</p>				☑
22. 授業の目的及び 主旨／授業科目の主 題	<p>1.みのまわりの現象について一般論や間違った情報に惑わされることなく,自ら正しい判断ができるために必要な化学の知識を身につける。</p> <p>2.レポートの作成により,論理的思考力,説明力,発問力を身につける。</p>				☑

	3.有機化学の学習を続ける上で必要となる三次元的空間認識力を身につける。	
23. 授業の到達目標 ／学修課題	教科書で扱われている有機化合物の IUPAC名が書ける。 教科書で扱われている有機化合物の反応が電子の流れを表す矢印を使って書き表せるようになる。 教科書で扱われている有機化合物の性質が専門用語を使って説明できる。 教科書で扱われている有機化合物の構造が立体的に書き表せるようになる。	<input checked="" type="checkbox"/>
24. ディプロマ・ポリシー (卒業時の到達目標・共通教育の理念・教育方針に関わる項目)		
25. カリキュラムマップ (授業科目の主題・授業科目の到達目標とカリキュラムマップ)		
26. 授業スケジュール ／授業計画並びに授業及び学習の方法	<p>第1週 「授業概要および準備」</p> <p>第2週 「有機化学とは何か」,「有機化学の基礎」</p> <p>第3週 「化学結合と電子構造」</p> <p>第4週 「電子の動きと共鳴」</p> <p>第5週 「構造式と化合物の分類および命名」</p> <p>第6週 「シーストランス異性と立体配置」</p> <p>第7週 「キラル炭素と鏡像異性体」</p> <p>第8週 「有機化学反応の分類と進み方」</p> <p>第9週 「アルカンのラジカル反応」</p> <p>第10週 「ハロアルカンの求核置換反応」</p> <p>第11週 「アルケンの求電子付加反応」</p> <p>第12週 「ベンゼンの構造」</p> <p>第13週 「ベンゼンの求電子置換反応」</p> <p>第14週 「カルボニル化合物と求核付加反応」</p> <p>第15週 「カルボン酸と誘導体」</p> <p>第16週 「期末試験」</p> <p>【授業及び学習の方法】</p> <p>全回オンデマンド型(非同期型遠隔講義)で行われます。教科書を使ってよく予習をし、レポートを提出した後、インターネットで配信されるeラーニング教材を大学や自宅などで視聴し、指定された期限までに章末試験に解答する順序で学習する。</p> <p>詳細については、コースのトップに記載している「受講の仕方」を参照すること。</p>	<input checked="" type="checkbox"/>
27. 授業時間外学習にかかわる情報	<p>【レポートの書き方】</p> <p>・準備として、教科書を読み、パラグラフごとに説明文をノートに書いてみましょう。ノートに書いた中から、3つを選んでレポートとして提出してもらいます。ただし、レポートには異なるパラグラフから1文ずつを選ぶこと。</p> <p>・説明文は1文にひとつの事柄を、具体的に書くこと。二つ以上の事柄を1文で書いてある場合や、2つ以上の文章で説明している場合、内容に間違いがある場合、文法的な間違いがある場合は再提出を求</p>	<input checked="" type="checkbox"/>

	<p>めます。また、主語と述語がそろっていない場合も再提出とします。</p> <p>*章末問題の正解の選択肢を書くつもりで書いて下さい。</p> <p>・提出されたレポートにはコメントを返すので、コメントを見て参考とすること。ただし問題ない場合には「OK」、よく書かれている場合には「Good」とだけ返します。再提出が必要な場合には「再提出」と返します。</p> <p>・レポートの最初の行には、タイトルを付けること。表紙は不要、タイトルはレポートの中身を表すものを自分で考えて付けること。2行目には自分の氏名、所属、学年を書くこと。1行空け、4行目から要約文を三つ書くこと。</p> <p>*毎回要約文を4つ以上書いた場合は加点とします。</p> <p>・レポートのファイル名は、学籍番号v章番号とすること。(例:b143c021v4.docx)</p> <p>・レポートはWordまたはPagesで作成し、圧縮せずに提出すること。</p> <p>・レポートはすべて提出すること。再提出が必要なのにしていなかった場合、提出していなかった場合は成績評価を行わない場合があります。</p>																		
<p>28. 成績評価の方法と基準</p>	<p>毎回のレポート 20%</p> <p>毎回のレポート追加点 10%</p> <p>毎回4つ以上の説明文を作成し、Goodの評価を得ていること。</p> <p>章末テスト 50%</p> <p>十分な予習時間をとり、間違えずに短時間で全問正解すること。誤答するたびに減点されます。</p> <p>期末試験 20%</p> <p>章末問題と同様の問題です。早く正確に解答すること。誤答するたびに減点されます。</p>	<input checked="" type="checkbox"/>																	
<p>29. 再試験の有無</p>	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="343 1055 571 1104">自大学学生向け</td> <td data-bbox="571 1055 1407 1104">なし</td> </tr> <tr> <td data-bbox="343 1104 571 1155">連携大学学生向け</td> <td data-bbox="571 1104 1407 1155">なし</td> </tr> </table>	自大学学生向け	なし	連携大学学生向け	なし	<input checked="" type="checkbox"/>													
自大学学生向け	なし																		
連携大学学生向け	なし																		
<p>30. 受講の条件／先行科目／受講人数制限</p>	<p>受講人数制限:あり</p> <p>香川大学20名・徳島大学20名・鳴門教育大学20名・高知大学20名・愛媛大学20名</p>	<input checked="" type="checkbox"/>																	
<p>31. 受講のルール履修上の注意・担当教員からのメッセージ／履修希望学生に求めるもの</p>	<p>各週の章末問題に、解答期限を設定しています。テストを受ける前にレポートを提出するため、レポート締切も同時期と考えて下さい。全てのレポートを提出し、試験に解答すること。未提出のレポートや未回答のテストがある場合、0点と評価します。</p> <p>* 締切に遅れても、必ずレポートを提出し、試験に解答してください。</p> <p>* 試験は2回解答可能です。2回解答した場合は平均点を成績とします。</p> <p>* 締切後にレポートをチェックし、コメントを返します。コメントを確認してください。レポートは、サイエンスコミュニケーションの練習のために書くものです。そのための評価基準を設定していますので、「受講の仕方」をよく読んで下さい。長い長いレポートを出す人がいますが、その場合は再提出とします。</p>	<input checked="" type="checkbox"/>																	
<p>32. 教科書(購入の必要のある図書)</p>	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="343 1675 507 1955" rowspan="4">教科書1</td> <td data-bbox="507 1675 667 1794">書名</td> <td colspan="3" data-bbox="667 1675 1393 1794">ビギナーズ有機化学</td> </tr> <tr> <td data-bbox="507 1794 667 1843">I S B N</td> <td data-bbox="667 1794 938 1843">9784759815399</td> <td data-bbox="938 1794 1098 1843">著者名</td> <td data-bbox="1098 1794 1393 1843">川端潤</td> </tr> <tr> <td data-bbox="507 1843 667 1892">出版社</td> <td data-bbox="667 1843 938 1892">化学同人</td> <td data-bbox="938 1843 1098 1892">出版年</td> <td data-bbox="1098 1843 1393 1892">2013</td> </tr> <tr> <td data-bbox="507 1892 667 1955">金額</td> <td data-bbox="667 1892 938 1955">2400</td> <td data-bbox="938 1892 1098 1955">備考</td> <td data-bbox="1098 1892 1393 1955"></td> </tr> </table>	教科書1	書名	ビギナーズ有機化学			I S B N	9784759815399	著者名	川端潤	出版社	化学同人	出版年	2013	金額	2400	備考		<input checked="" type="checkbox"/>
教科書1	書名		ビギナーズ有機化学																
	I S B N		9784759815399	著者名	川端潤														
	出版社		化学同人	出版年	2013														
	金額	2400	備考																

33. 教科書・参考書に関する補足情報	参考書1	書名				<input type="checkbox"/>
		ISBN		著者名		
		出版社		出版年		
		金額		備考		
	参考書2	書名				
		ISBN		著者名		
		出版社		出版年		
		金額		備考		
	参考書3	書名				
		ISBN		著者名		
		出版社		出版年		
		金額		備考		
34. Webテキスト (URL・説明)	大学連携e-Learning教育支援センター四国(知プラ)ホームページ <a href="http://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/">http://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/</a>				<input checked="" type="checkbox"/>	
35. パソコン必要度	必要	36. 資格等／本科目受講が必要となる資格等 ／資格取得該当科目	なし		<input checked="" type="checkbox"/>	
37. 教員相互参観授業公開日程					<input type="checkbox"/>	
38. オフィスアワー	自大学 学生向け	なし			<input type="checkbox"/>	
	連携大学 学生向け	(Skype等webで対応できる場合のみ) なし			<input type="checkbox"/>	
39. 連絡先／学生相談場所／学生開示用メール	自大学 学生向け	Moodle内のコミュニケーションツール(フォーラム)を利用すること。			<input checked="" type="checkbox"/>	
	連携大学 学生向け	Moodle内のコミュニケーションツール(フォーラム)を利用すること。			<input checked="" type="checkbox"/>	
40. その他／備考	なし				<input type="checkbox"/>	